やま

平成８年７月６日　発　行

No. 10

社団法人　日本山岳会山形支部
〒990 山形市下条町五丁目８番16号
長岡伸恭方　TEL・FAX 0236(84)8149

目　次

アンナプルナ・ダウラギリ　パノラマトレック報告特集
海外山行を会の活力に・金森繁三郎… 1
計画実施までの経緯と
　準備の概要…… 2
アンナプルナ・ダウラギリ　パノラマトレック
　計画書の概要…… 4
行動記録・今野秀徳 …… 7
トレッキング地図……13
もう一つの記録・渡辺　誠 ……14
食糧計画と反省・會田茂雄 ……16
会計報告・三浦繁司 ……16
留守事務局より・菊地俊彦 ……17
◆隊員のトレッキング紀行◆
再びネパール王国へ・會田茂雄 ……18
下痢と女と犬と
　処女峰アンナプルナ・梅津　博 …19
ヒマラヤを歩きながら・大場貞吉 …20
ヒマラヤを旅して・今野秀徳 ……21
民族との出会い・菅原富喜 ……22
少し前の日本を思い起こさせる
　国ーネパールーを旅して
　・高橋　治……23
アンナプルナより
　愛をこめて・田中洋子 ……24
アンナプルナ・ダウラギリ
　パノラマトレックに参加して
　・東海林敬……25
ヒマラヤ雑感・長岡伸恭 ……26
アンナプルナ・ダウラギリ
　トレックでの雑感・長谷川利貞……27
心の故郷ネパールより・三浦繁司 …28
アンナプルナ・ダウラギリの
　眺望雑感・渡辺　誠 ……29
トレッキングをご一緒して
　・東　眞理子……30
あとがき・梅津　博 ……31

支部事業報告
平成７年度の事業概要……32
支部記録から……33

★写　真　菅原富喜・會田茂雄・三浦繁司ほか
★挿　画　田　中　洋　子

アンナプルナ・ダウラギリ　パノラマトレック
報告特集

海外山行を会の活力に

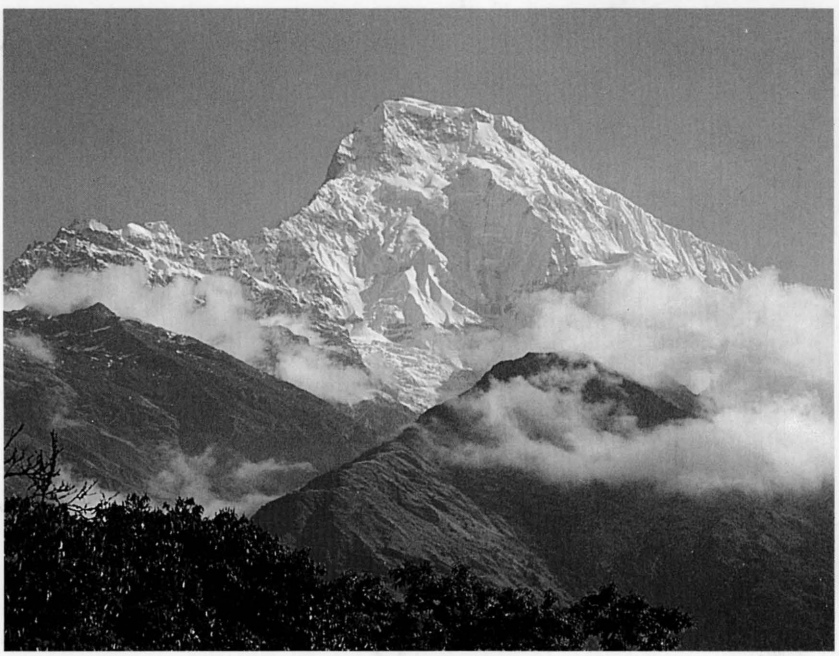
金　森　繁三郎

今回のヒマラヤトレッキングは、計画から実施まで、すべて支部長が中心になり、事務局が組織的に取組み、参加者も役割分担に応じ力を発揮できた山行であったと思う。

折しもネパールでは、ＪＡＣ会員を含む多数のトレッカーの、雪崩による遭難が伝えられたが、山形支部では、参加者全員事故もなく、予定ルートを踏破して元気に帰形した。留守を預かる者としてこれ以上の喜びはない。

安易なツァー形式の蔓延で、誰もが簡単に海外山行に参加できる故か、山岳会の存在も何となく稀薄になりがちな中、山形支部では山岳会本来の姿が健在であることに誇りと嬉しさを感じている。

今後とも、海外山行の一連の体験は皆のものとして、しっかり引き継いでもらいたい。　**（実施本部長）**



▲　アンナプルナ・サウス（7,219m）　タラパニから

▲　プーンヒルでの記念撮影

▲　ダウラギリを背景に　ゴラパニでの食事

▲　アンナプルナ山群

▲　ダウラギリ山群

計画実施までの経緯と準備の概要

事　務　局

「アンナプルナ・ダウラギリ　パノラマトレック」は、隊員13名により、平成８年４月25日山形を出発して、５月６日に山形に帰ってくるまでの12日間にわたり、アンナプルナ・ダウラギリの展望地ゴラパニを中心として、雄渾極まりない大山脈の美しさに感動するとともに、数多くの貴重にしてかつ驚嘆すべき体験をお土産に、無事終了することができました。

このように素晴らしいトレッキングができましたことは、周到な準備をしたつもりではありますが、それにもまして協力くださいました支部会員の皆様と、トレッキングを支援してくださいましたトレッキングマネェージャーの東さんを始めとするアトラストレックには深く感謝を申し上げるものであります。

この度のトレッキングは、参加者の殆どの方が常日頃から支部山行や集会に参加されておられた方々ですから、気心は十分に分かっているつもりでしたが、このトレッキングを機会に入会された方が２名おられました。これらの方を含めて年齢的には47歳から64歳までの比較的に幅のない年配者のグループであったことで、心配されたトラブルもなく終始和やかに終了することができました。

計画にあたっては、海外登山などという気負ったつもりはなく、年間の支部行事のひとつとして、年配者でも何とか一度くらいは、ヒマラヤの山を生で見てみようではないかとの思いで、展望がよく体力的にもきつくない所を選定したつもりでした。また、ツァーリーダーを引き受けてくださったアトラストレックの東さんには大変お世話になり、面倒なことも処理していただきました。ただ、トレッキングを終わってみて、「年配者には、少しばかり、きつかったのかな」という感じを持っております。

このトレッキングでヒマラヤが始めての方が、13名中８名おられました。また、フル規格のトレッキングは支部としては始めてのことであり、参加された方も恐らく始めてだったのではないかと思います。それだけに計画の段階での苦労はあったものの、現地で見ることやること全てが、驚きと感動の連続だったのではないかと思っております。

人との出会いや、幽玄なまでの自然については、参加された方たちの「私のトレッキング紀行」に譲るとして、ここでは、計画実施までの概要について、若干紙面を割きたいと思います。

平成７年

10月 5日　支部事務局会議
　平成８年度の事業計画を作るにあたって、平成５年のエベレスト山麓トレッキングのひきつづきとして、海外の計画を立てることで意見一致

10月16日　梅津
　計画を立てるにあたって、２・３の業者と相談

11月10日　梅津・アトラス（東）／TEL
　前回の業者とコース・費用について相談

11月15日　梅津・アトラス（東）／FAX・TEL
　アトラストレックより見積書受領

11月17日　梅津・アトラス（東）／TEL
　装備・現地スタッフの人数・ツァーリーダーについて打合

11月20日　梅津・アトラス（東）／TEL
　成田空港発着便の決定と、この期間は混雑が予想されるので、早急に参加者を決定する方向で要検討

12月 5日　支部事務局会議　　山形市東部公民館
　ヒマラヤの「アンナプルナ・ダウラギリパノラマトレック」、時期をゴールデンウィークとすることで原案作成

12月 9日　支部役員会　　最上町赤倉温泉
　事務局案を提示、平成８年度事業の前倒しの形で実施することで了解

12月 9日　支部晩餐会　　最上町赤倉温泉
　計画について支部会員に説明。参加者の募集を開始

12月11日　支部事務局
　トレッキング旅行代行業者をアトラストレックとすることを決定

平成８年

1月22日　梅津・アトラス（東）／TEL
　航空券の早期確保のための手段として、参加予定者名簿を事前作成で合意

1月22日　梅津・長岡／TEL・FAX
　参加予定見込み者名簿を作成
1月22日　梅津・アトラス（東）／FAX
　参加予定者見込み名簿を送付
1月28日　トレッキング説明会　　教育会館
　説明者にアトラストレック東眞理子トレッキングマネェージャーを招致して説明
　参加申し込み15名分の受付と申込金受領
1月31日　事務局（長岡）
　参加申し込み１名受付
2月13日　支部役員会　　山形市東部公民館
　参加者確定15名　保留１名
　トレッキングの役割分担を決定
2月15日　事務局（三浦）
　参加申込金を取り纏め、一括銀行振込
2月22日　梅津・アトラス（東）／TEL
　参加者１名追加について打合
2月23日　梅津・アトラス（東）／TEL
　参加保留分１名取消
2月23日　梅津・アトラス（東）／TEL・FAX
　参加者１名追加分の申込書送付
2月27日　事務局（長岡）
　準備会開催と旅行費用説明の内容を参加予定者あて通知
3月 5日　梅津・アトラス（梶山）／〒
　旅行代金請求書受領
3月 6日　梅津・アトラス（東）／〒
　旅行保険パンフレット、装備表受領
3月12日　梅津・アトラス（梶山）／TEL・FAX
　現地連絡場所・、使用ホテルの住所、電話等について照会
3月12日　支部事務局会議　　山形市東部公民館
　トレッキング計画書概要案作成
3月24日　参加者準備会　　教育会館
　トレッキング計画書概要提示、役割分担決定
　各係の計画作成依頼
3月25日　梅津・アトラス（東）／TEL
　食料、装備の持ち込みについて打合
3月25日　三浦・梅津
　旅行代金と保険金取り纏め、一括銀行振込
3月27日　梅津・アトラス（梶山）／TEL・FAX
　旅行代金と保険金の内容について打合せ・送付
3月28日　梅津・アトラス（梶山）／〒
　旅券、写真を取り纏め、一括送付
3月30日　梅津
　参加辞退の申し入れ１名、当事者と検討
3月30日　梅津・高橋／〒
　医療計画書送付あり受領
4月 1日　梅津・アトラス（梶山）／TEL
　参加辞退につき申し込み取り消し１名
4月 4日　梅津・アトラス（東）／TEL
　最終準備会の日程等とカトマンズ市内観光・食事について予約
4月 4日　梅津・長岡／TEL・FAX
　行動中の班編成とホテル・テントのルーミングを作成
4月 5日　梅津・アトラス（東）／TEL・FAX
　ルーミング表を送付
4月 8日　梅津・アトラス（東）／TEL
　航空券の取得について打合　「３人分の航空券がとれない！」
4月 9日　梅津・アトラス（東）／TEL
　航空券の取得について打合　「１人分はツァーリーダー分を振り替える。」ことで合意
4月10日　梅津・東海林／FAX
　装備計画書送付あり受領
4月11日　梅津・アトラス（東）／TEL・FAX
　とれない３人分の航空券についての代案の便を検討
4月11日　梅津・長岡／TEL
　航空券の取得について打合　緊急会議を招集することで合意
4月11日　緊急会議　　遊学館
　梅津・長岡・今野・斉藤・大場
　事情説明し、全員了解
4月12日　梅津・アトラス（東）／TEL
　航空券の取得について打合　２人分の航空券については最終まで「キャンセル待ち」で合意
4月13日　梅津・アトラス（東）／TEL
　大場分の航空券がとれたことの連絡受領
4月13日　梅津・長岡・大場／TEL
　上記について連絡
4月13日　梅津・アトラス（東）／
　最終案内、Ｔシャツ送付あり受領
4月14日　参加者準備会　　教育会館
　ツァーリーダーの東さんを招致し打合
4月18日　梅津・菊地
　キャンセル代金支払
4月23日　梅津・アトラス（東）／TEL
　最終打合

▲　よく働くネパールの少女

アンナプルナ・ダウラギリ　パノラマトレック計画書の概要

1　期　　間　　平成８年４月25日（木）～５月６日（月）　１２日間

2　参加者

No.	役割分担	ふりがな 氏名	性別・血液型 生年月日	自宅住所TEL電話番号 勤務先名称TEL電話番号FAXFAX番号
1	食糧	會田茂雄（あいたしげお）	男・B	990　山形市東原町 2-4-25　TEL FAX 0236-24-0447
			410101	ＪＴニフコ㈱　TEL 0236-44-5171 FAX 0236-45-5357
2	隊長	梅津博（うめつひろし）	男・AB	990　山形市小白川町 4-17-11　TEL FAX 0236-32-5827
			310818	発明協会山形県支部 TEL 0236-44-3628 FAX 0236-44-3303
3	装備	大場貞吉（おおばさだよし）	男・AB	999-31上山市皆沢 518　TEL 0236-74-2368
			460307	㈱奥村油店蔵王　TEL 0236-88-2106
4	記録行動	今野秀穂（こんのひでほ）	男・A	994　天童市東長岡 2-4-3　TEL 0236-55-4731
			331205	出羽桜酒造㈱　TEL 0236-53-5121 FAX 0236-53-0600
5	記録観察	斎藤哲郎（さいとうてつろう）	男・O	990-02山形市大字下東山 1061-1　TEL 0236-87-3720
			340325	山形タカセ観光社　TEL 0236-87-3720 FAX 0236-86-3582
6	記録写真	菅原富喜（すがはらとみき）	男・A	996　新庄市堀端町 7-83　TEL 0233-23-1611
			330216	
7	医療	高橋治（たかはしおさむ）	男・O	996　新庄市石川町 1-7　TEL 0233-22-3334
			320313	
8	食糧	田中洋子（たなかようこ）	女・B	995　村山市楯岡楯 2-24　TEL 0237-53-3260
			420412	
9	装備	東海林敬（とうかいりんたかし）	男・A	990　山形市山家町 1-3-50　TEL 0236-32-2630
			450504	㈲東海林敬事務所　TEL 0236-32-2630 FAX 0236-25-0235
10	事務局ビデオ	長岡伸恭（ながおかのぶやす）	男・A	990　山形市下条町 5-8-16　TEL FAX 0236-84-8149
			400401	㈲東海林敬事務所　TEL 0236-32-2630 FAX 0236-25-0235
11	記録行動	長谷川利貞（はせがわとしさだ）	男・O	982　仙台市太白区青山 2-1-32　TEL 022-229-6445
			340223	山形建設㈱　TEL 022-266-5208 FAX 022-211-6515
12	事務局会計	三浦繁司（みうらしげじ）	男・AB	990　山形市下槙沢 521-1　TEL 0236-45-2958
			491003	山光油業㈱　TEL 0236-32-5083 FAX 0236-42-6159
13	記録観察	渡辺誠（わたなべまこと）	男・O	990　山形市あずま町 3-14　TEL 0236-23-0958
			410322	山形西高等学校　TEL 0236-41-3504 FAX 0236-41-3504
14	ツアーリーダー	東眞理子（あずままりこ）	女	㈱アトラストレック　TEL 03-3341-0030 FAX 03-3341-9200

3　出　　発（チャーターバス利用）

4月25日（木）22:00 新庄市文化会館駐車場　　２名乗車（菅原、高橋）
22:40 村山市ヤマザワ駐車場前　１名乗車（田中）
23:00 天童市野口鉱油前　　１名乗車（今野）
23:30 山形駅構内　　９名乗車（會田、梅津、大場、斎藤　東海林、長岡、長谷川、三浦、渡辺）

4　日　　程

No.	月　日	発　着　地	時　間	交通機関	摘　　要	宿　泊
1	4月25日(木)	山　形　駅　前	23：30	バス	チャーターバスで成田へ、	車中泊
2	4月26日(金)	成　田　空　港 成　田　空　港 バ　ン　コ　ッ　ク	07：00 11：00 15：30	 TG-641	早朝、成田空港着 空路、タイ国際航空機で、 バンコックへ、	 ホテル泊
3	4月27日(土)	バ　ン　コ　ッ　ク カ　ト　マ　ン　ズ	10：55 12：55	TG-311	空路、タイ国際航空機で、 カトマンズへ、	 ホテル泊
4	4月28日(日)	カ　ト　マ　ン　ズ ポ　カ　ラ ル　ム　レ チャンドラコット	10：00 12：00 14：00 15：00	RA-141 専用車 徒歩	空路、ポカラへ、ポカラで シェルパと合流 専用車でルムレへ、 徒歩でチャンドラコットへ、	 キャンプ
5	4月29日(月)	チャンドラコット ガ　ン　ド　ル　ン	08：00 16：00	徒歩	モディ・コーラ沿いの道を グルン族の村ガンドルンへ、	 キャンプ
6	4月30日(火)	ガ　ン　ド　ル　ン タ　ラ　パ　ニ	08：00 15：00	徒歩	山腹道から樹林帯へ、アン ナプルナの山々が目の前へ、	 キャンプ
7	5月 1日(水)	タ　ラ　パ　ニ デ　オ　ラ　リ　峠 ゴ　ラ　パ　ニ	08：00 15：00	徒歩	石楠花の道を右岸から左岸 へ、一気にデオラリ峠へ、 そしてゴラパニへ、	 キャンプ
8	5月 2日(木)	ゴ　ラ　パ　ニ プ　ー　ン　ヒ　ル ゴ　ラ　パ　ニ	04：00 05：30	徒歩	プーンヒルへ登りアンナプ ルナ・ダウラギリの展望を 楽しむ。ゴラパニ滞在	 キャンプ
9	5月 3日(金)	ゴ　ラ　パ　ニ ビ　レ　タ　ン　テ　ィ ナ　ヤ　プ　ー　ル	05：30 16：00	徒歩	石段道から樹林帯の緩やか な道をウレリへ、石段道を ジグザクにビレタンティへ、	 キャンプ
10	5月 4日(土)	ナ　ヤ　プ　ー　ル ポ　カ　ラ カ　ト　マ　ン　ズ	07：00 16：25 17：00	専用車 RA-146	約30分歩いた後、車でポカ ラへ、その後、航空機でカ トマンズへ、	 ホテル泊
11	5月 5日(日)	カ　ト　マ　ン　ズ バ　ン　コ　ッ　ク バ　ン　コ　ッ　ク	13：55 18：15 23：30	TG-312 TG-642	空路、タイ国際航空機で、 バンコックへ、夕食後、乗 替え	 機内泊
12	5月 6日(月)	成　田　空　港 成　田　空　港 山　形　駅　前	07：30 08：15 16：00	 バス	早朝、成田空港着 チャーターバスで山形へ、	

㊟　カトマンズでの利用ホテル　　ＨＯＴＥＬ　ＳＨＥＲＰＡ（ホテル　シェルパ）
Durbar Marg, p.o.Box 901, Kathmandu, NEPAL　TEL:227000
バンコックでの利用ホテル　　SOL TWIN TOWER HOTEL（ソル・ツインタワーホテル）
88 New Rama VI Road Rongmuang, Patumwan Bangkok 10330　TEL:02-2580160

5　帰　　着（チャーターバス利用）

5月６日（月）08:15 成田空港発　　16:00 山形着　18:00 新庄着

6　共同装備

細引 6㎜（20ｍ）
（宿泊関係と食事関係の器材は旅行業者で準備）

7　共同食糧

醤油２本、味噌３袋、ほんだし１瓶、岩海苔１瓶、麦茶２袋、ふりかけ２袋、ごま昆布６袋、
ホワイトペッパー１瓶、七味１瓶、梅干し７袋、漬物23袋
（テント宿泊時の食料は旅行業者で準備）

8　共同医薬品
　風邪薬（ルル）、胃腸薬（三共胃腸薬）、下痢止め薬（正露丸）、頭・歯痛薬（バファリン）、傷薬（テラマイシン軟膏）、傷ドライ、包帯、三角巾、滅菌ガーゼ、絆創膏、カット絆、消毒液（マキロン）、湿布薬、虫除け、虫し刺され（オイラックスＧ）目薬（新Ｖロート）

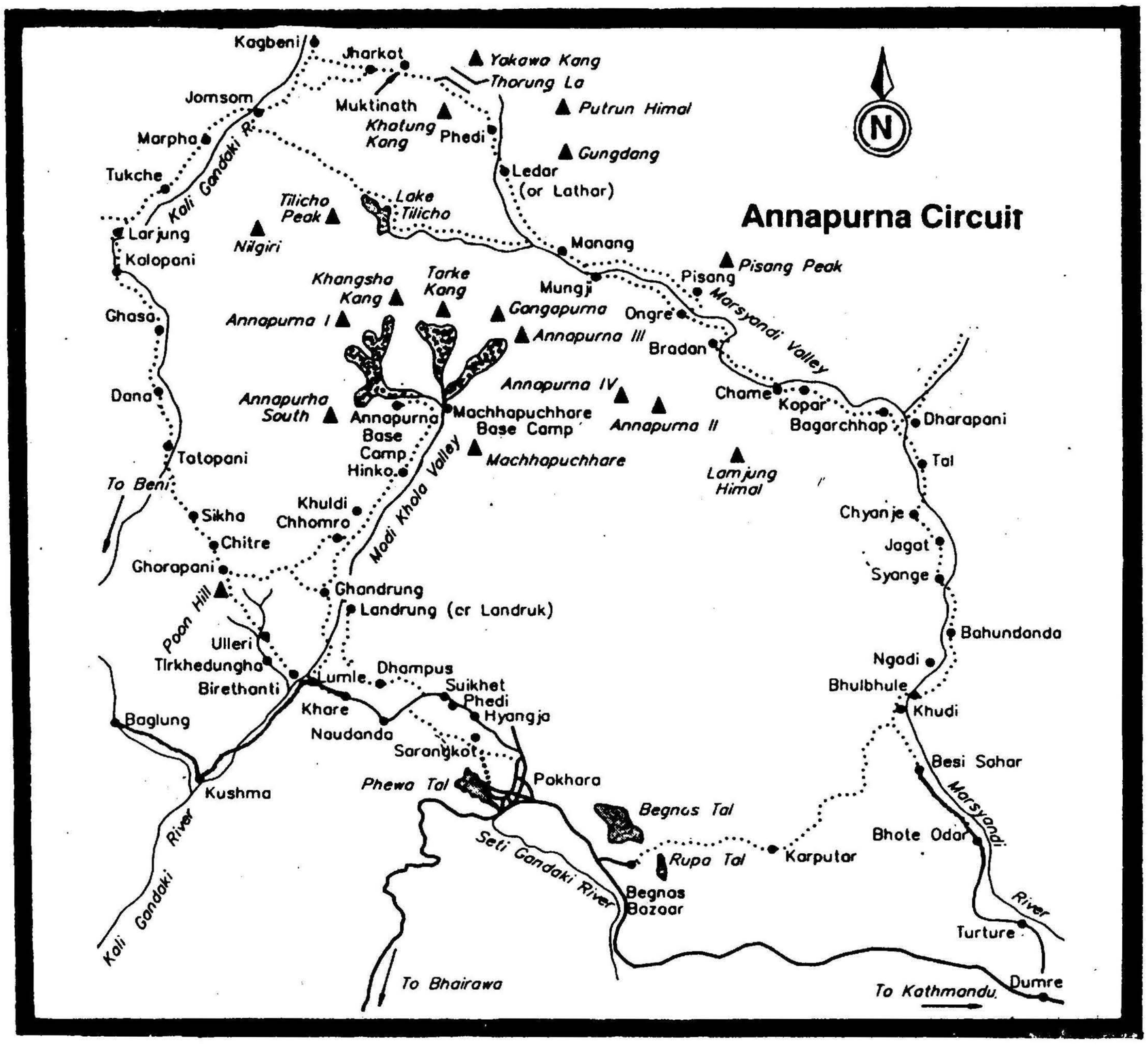
9　経　　費（個人負担額）

旅行費用	¥317,000	
査証代	¥2,500	
査証取得代行料	¥4,120	
会費	¥ 46,380	（チャーターバス・エヤーポートＴＡＸ・食事料等）
計	¥370,000	

10　運 営 費（支部会計支出額）

記録作成費	¥30,000
計画作成費	¥20,000
実施運営費	¥50,000

11　実施本部　〒998 酒田市東泉町三丁目２－１５　金森繁三郎　TEL FAX:0234-24-3859
12　留守本部　〒998 山形市宮町四丁目23－27　菊地俊彦　TEL:　0236-41-4236
13　現地連絡先　HIMALAYAN JOURNEYS(PVT)LTD　Kantipath, P.O.Box 989 Kathmandu, NEPAL
TEL:226138, 226139　FAX:227068
夜間緊急時連絡先　TEL:4-13006（大河原汎二・由紀子）
14　緊急連絡先　〒160 東京都新宿区三栄町２３　（株）アトラストレック
TEL:03-3341-0030　FAX:03-3341-9200



▲　トレッキング概念図　（Yeti Praduct ROUNDANNAPURNA による）

行　動　記　録

記録係　今　野　秀　穂
（協力　長谷川　利　貞）

4月25日（木）　23：20　山形駅前発　チャーターバス

チャーターバスは、新庄で高橋、菅原の２隊員を、楯岡で田中隊員、天童で今野隊員を乗せ、23時20分山形駅前で残りの梅津隊長以下会田、大場、斉藤、東海林、長岡、長谷川、三浦、渡辺の各隊員を乗せて、勇躍出発した。菊池留守本部長を始め、隊員家族の見送りを受けて、満天星空のもとバスは仮眠する隊員を乗せ、東北自動車道・常磐自動車道を成田空港を目指して走った。

4月26日（金）　05：20　成田国際空港着
11：00　成田国際空港発　タイ国際航空TG-641便
15：30　バンコック国際空港着　　ソル・ツインタワーホテル宿泊
（今野隊員）
19：00　成田国際空港発　タイ国際航空TG-673便
23：40　バンコック国際空港着　ホテルで本体と合流

バスは、夜明けの成田空港に到着、空港内で朝食、出発までの時間をゴールデンウィーク初日の人込みの中で過ごし、ようやく離陸、機内も満員だったが、タイ航空のサービスが何ともよかった。今野隊員は、都合で夕方の便になってしまった。
バンコック空港でガイドの出迎えをうけ、専用バスでホテルに入った。バンコック市内の交通渋滞は凄いの一語に尽きる。夕食は、日本にも出店しているタイスキ本家本元「コカレストラン」で豪快に蝦、蟹などを味わった。途中の露店で買った地酒もまたひと味違った楽しみであった。

4月27日（土）　10：30　バンコック国際空港発　タイ国際航空TG-311便
12：35　トリブヴァン国際空港着　専用バス
13：15　シェルパホテル着
13：40　カトマンズ市内観光　専用バス
シェルパホテル宿泊

昨夜降雨があり、気温も30度を越すむし暑い朝である。８時にフロントへ集合、専用バスでバンコック空港へ、10時30分バンコック空港を飛び立ち、12時35分ようやく標高1，400メートルのカトマンズ（トリブヴァン国際空港）に到着した。空港には、ツァーリーダーが笑顔で迎えてくれた.
市内を牛が悠然と歩き、いぬが飛び回り、鶏がなく、人と動物が渾然一体となって同居しているような感じを受けるカトマンズの目抜き通りを専用バスでシェルパホテルへ入った。
荷物を整理後、現地ガイドのラメッシュさんの軽妙な案内でスワヤンブ・ナート、旧王宮広場、クマリ館、ハヌマン・ドカ、カーラ・バイラブ、カスタマンダップなどの市内観光でひとときを過ごした。夕食は、ネパールの結婚式にも出されるというチベット料理を「ウツッエレストラン」でとり、明日から始まるヒマラヤのや山行に備えて英気を養った。

4月28日（日）　13：50　シェルパホテル発　専用バス
14：45　カトマンズ空港発　ロイヤル・ネパール航空RA-141便

15：27　ポカラ空港着
15：42　ポカラ発　専用バス
17：07　ルムレ着
17：12　ルムレ発　徒歩
17：50　チャンドラコット着　標高1，600メートル　テント泊

（天候）曇　（気温）06：00～24℃　12：00～33℃　18：00～26℃

今日ポカラへ飛ぶ予定の飛行機が３時間ほど遅れるということで、ヒンドゥー教の聖地パシュパティ・ナートを見学した。昼食は、日本食レストランの「串藤」で異国の和風ステーキを味わった。

気温は30度を超えたが、肌には余り暑さを感じない。14時45分にカトマンズ空港から20数人乗りの小型飛行機でポカラに向かう。飛行高度は3，500メートル位か、ヒマラヤの大地が果てしなく広がり段々畑が天まで届くかに耕されて美しい模様を作っていた。この日は、ヒマラヤの神々の座は雲に隠れて見えないのが残念であった。

15時27分我々の小型飛行機は、砂塵を巻き上げて標高９００メートルのポカラ空港に舞い降りた。すぐに専用バスは九十九折りの山道をあえぎながら高度をあげ、ルムレに到着、小憩の後、隊列を組んで17時12分に出発した。いよいよヒマラヤの山の生活が始まる。斜面にへばりつく民家の前をとおり石畳の道を踏み標高1，600メートルのチャンドラコットのテント場に、17時50分に到着した。

隊員のテント７張、食堂用テント１張、炊事用テント１張が先発のシェルパ等によって準備されていた。食堂用テントで、山で始めての夕食をとった。

遠く天につながるような山の高みにある民家のあかりが霧雨の中、幻のようにともっている。明日は晴れるだろうか、隊長以下全員すこぶる元気である。

（夕食メニュー）　チャパティ（ママレード、ジャム、蜂蜜添え）　水牛のステーキ　野菜サラダ　果物

4月29日（月）　07：50　チャンドラコット発
15：05　ガンドルン着　標高1，930メートル　テント泊

（天候）雨後曇　（気温）06：00～22℃　12：00～32℃　18：00～22℃

厚い雨雲がヒマラヤの上空を覆い、激しい雨がテントを打つ、雨雲をとおして夜明けのはるか北方に高い雪山が望まれたが、あれがわれわの目指すアンナプルナだろうか。

６時30分、雨の音を聞きながら起床、モーニングティの後、洗顔、朝食と続き、７時50分小雨に変わった中、九十九折りの岩の路をモディ・コーラの標高４００メートルまで一気に下った。この頃より天候が回復し、一瞬アンナプルなの白く高い峰が雲の切れ間から蒼天に屹立している姿が望まれ、一同を元気づけてくれた。

長岡、菅原、大場隊員が、ヒマラヤ名物山蛭に襲われたが、治療の結果、後遺症はないようだ。水牛があちこちに見え、道端には、赤い花が目だって咲いていた。

雨が止み、ヒマラヤの蒼天井の下、シャウリバザールで11時昼食をとり、12時に出発した。気温は32度を示したが、涼風があり、暑さはあまり感じなかった。

ガンドルンまでは、急登の連続でいささか苦闘した．４・５回の休憩を繰り返し15時５分に標高1，９３０メートルのガンドルンのテント場についた。

小憩後、希望者のみ村の小さな博物館を見学、帰り道、猿が飛ぶように樹木を渡って行くのに遭った。

19時夕食、食後シェルパの叩く太鼓にあわせて踊り友好を深めた。夕方わずかではあるが、アンナプルナの黒々とした姿が見えたが、すぐ雲に隠れてしまった。夜、再び小雨に変わり、日本の鈴虫のような虫が鳴いていた。ヒマラヤは春と秋が同居しているのだろうか。星は全く見えず、明日の好天を祈るのみである。隊長以下全員すこぶる元気である。

（朝食メニュー）　チャパティ（ママレード、ジャム、蜂蜜添え）　お粥　コーヒー　ミルク　日本の漬物
（昼食メニュー）　パン（ママレード、ジャム、蜂蜜添え）　ラーメン　日本の漬物
（夕食メニュー）　スパゲッティ　地鶏のから揚げ　バナナ　コンソメスープ　ライスカレー

4月30日（火）　07：50　ガンドルン発
13：00　タラパニ着　標高2，680メートル　テント泊

（天候）曇後雨　　（気温）06：00～20℃　　12：00～28℃　　18：00～16℃

昨夜は、一時激しい雨がテントを叩いたが、夜明けがたは小雨に変わった。６時起床、モーニングティ、洗顔、７時朝食、７時50分ガンドルのテント場を出発した。

時折暑い陽射しがさして天候の回復を期待するものの、上空は厚い雲が断続的に連なっていた。急坂をしばらくのぼり樹林帯にはいると、ヒマラヤ石楠花の巨木に真紅の花が一輪二輪と咲き誇り、エビネの黄色い花がこともなげに咲き、山蛭が吸盤を上に向けて人の通るのを待ち構えていた。後遺症はなかったものの長谷川隊員も山蛭に襲われた。樹林帯は山蛭の宝庫のようである。

昼食は11時にロッジの前のあずまやで賑やかに過ごしたが、流れ出た汗に冷気が吹き寒くなってきたと思ったら、雨も降り出してきた。雨の止んだのを見計らって12時に出発した。

13時に標高2，680メートルのタラパニのテント場に到着した。ガスが濃く、加えて激しい雷雨に見舞れ、気分も落ち込んできた矢先、雲が流れ去り眼前に天を抜く白く高い神々の峰々アンナプルナⅠ峰（8，091m）、アンナプルナⅡ峰（7，937m）、マチャプチャレ（6，997m）のアンナプルナ山群の山々が現れその雄渾な姿に感激した。

18時夕食、夜満天の星の下、相変わらず夢のように神々の座は青白く高くつらなっていた。隊長以下全員すこぶる元気である。

（朝食メニュー）　パン（ママレード、ジャム、蜂蜜添え）　お粥　目玉焼き　日本の梅干し　日本の海苔佃煮　日本の漬物

（昼食メニュー）　パン（ママレード、ジャム、蜂蜜添え）　蜜柑　野菜さらだ　ラーメン　春まき風の揚げ物

（夕食メニュー）　餃子　野菜炒め御飯　てんぷら　ポップコーン　日本の海苔佃煮　日本の漬物

5月1日（水）　07：45　タラパニ発
14：20　ゴラパニ着　標高2，870メートル　テント泊

（天候）晴後曇　　（気温）06：00～12℃　　12：00～22℃　　18：00～20℃

冷気やや強く、早朝アンナプルナ・マチャプチャレの峰々が綺麗に天に向かって立っていた。ヒマラヤの鳥は早く暗いうちから啼きだした。今日の天気は良い方に向かっているのだろうか。

７時朝食、７時45分テント場を出発、少し雲量が多くなってきたが、アンナプルナ山群は良く望まれた。タラパニのテント場から約２００メートルを谷の下部まで下り石楠花の巨木の下を縫うようにまた登ってゆく。日本で見るノウゴウイチゴ、ミズらしきものが生えていた。タラパニのテント場を出発して初めてのバッテイで小休止、標高2，900メートル位である。この付近から石楠花の花が目だってきた。

11時15分、昼の休憩場所のデュラリーに到着、リンドウ、サクラソウの可憐な花が咲きしばし目を楽しませてくれた。気温も下がった霧雨の中を12時30分に出発したが、この付近から石楠花の花が咲き誇り全山渓谷を真っ赤に染めている光景には、その巨木とともに圧倒された。

13時50分にゴラパニに至る峠に到着した。間もなくゴラパニである。14時20分ゴラパニのテント場に到着、雲間にダウラギリの鋭鋒が望まれた。夕方激しい雷雨があった。

18時夕食、夜、雨は止んだものの雲はまだ厚く時々雲間から星が望まれ明日の好天が期待される。隊員に下痢症状が幾分みえるが、隊長以下全員元気である。

（朝食メニュー）　パン（ママレード、ジャム、蜂蜜添え）　お粥　目玉焼き　日本の梅干し　日本の海苔佃煮　日本の漬物

（昼食メニュー）　チャパティ（ママレード、ジャム、蜂蜜添え）　煮豆　野菜サラダ　馬鈴薯のケチャップ煮林檎

（夕食メニュー）　鶏のももものから揚げ　チャパティ（ママレード、ジャム、蜂蜜添え）　麸の味噌汁　野菜炒め御飯　カリフラワー　キャベツのお浸し　日本の漬物

5月2日（木）　04：55　ゴラパニ発
06：30　プーンヒル着　標高3，192メートル
07：20　ゴラパニ着　標高2，870メートル　テント泊

（天候）晴後曇　　（気温）06：00～12℃　　12：00～22℃　　18：00～16℃

早朝４時、アンナプルナ山群にまとわりついていた雲も消え去り、夜明けのヒマラヤの空に青白色の鋭峰が立っていた。満天の星もまだきらめいていた。

４時55分、未明の岩道を懐中電灯をともしテント場を出発した。プーンヒルに向かい高度をあげる度にアンナプルナ、ダウラギリの全容が迫ってきた。今回のハイライトをヒマラヤの神々の座は青白色の氷雪の峰々を頂稜より朱赤に染めるすばらしい朝焼けで飾ってくれた。これがヒマラヤの朝だ、神の化身を見た思いさえした。

６時30分、標高3，192メートルのプーンヒルに到着し、ヒマラヤの山々を心ゆくまで満喫した。下りも道々アンナプルナ、ダウラギリの山々を楽しみながら７時20分にゴラパニのテント場に帰着した。

８時朝食をとり以後自由行動とした。

12時の昼食には、ツァーリーダー苦心の日本の素麺が出て全員をうならせた。これは美味かった。

18時夕食、この日の夜は星が美しく、アンナプルナ、ダウラギリが神秘的な青い光に包まれていた。明日はハードな行程なので皆早目めにテントにはいった。今日も隊員に下痢症状が幾分見えたが、隊長以下全員元気である。

（朝食メニュー）　パン（ママレード、ジャム、蜂蜜添え）　お粥　茹で卵　野菜炒め　日本の梅干し　日本の海苔佃煮　日本の漬物

（昼食メニュー）　日本の素麺　野菜サラダ　馬鈴薯の油炒め　日本の梅干し　日本の海苔佃煮　日本の漬物

（夕食メニュー）　卵いれおじや　茄子の油炒め　チャパティ（ママレード、ジャム、蜂蜜添え）　スープ

5月3日（金）　07：00　ゴラパニ発
15：50　ナヤプール着　標高1，000メートル　テント泊

（天候）晴後雨　　（気温）06：00～18℃　　12：00～32℃　　18：00～26℃

この日の朝は快晴だった。アンナプルナ、ダウラギリの山々が朝焼けに染まり、頂上稜線に雪煙の舞っているのが見事であった。

６時朝食，７時ゴラパニのテント場を出発、今日は長い行程なので２班に分け行動することとした。アンナプルナ班（東、梅津、長岡、菅原、田中、三浦、今野）ダウラギリ班（会田、大場、高橋、東海林、長谷川、渡辺）とし、それぞれシェルパを配置して、万全を期した。しかし、これは結果的には、杞憂にすぎなかったようであった。全員が故障もなくまとまって乱れずに行動できたからである。

長い長い石を敷きつめた階段道路の山道を果てしなく下りに下った。荷を背負ったロバの隊商と何度も行き遭った。山をトラバースするとき誰かが黒部の廊下を歩いているようだといったが、切り立った渓谷は深くて水音さえ聞こえてこなかった。

途中、石で屋根を葺いた集落の軒先を縫うようにして相変わらずの急坂を下っていった。桜の木に小粒のサクランボがたくさんついていた。気温は高く33度にもなっていた。ウレリーまでは樹林帯であり、ウレリーからは見晴らしのよい下り道にはいるのだが、急坂はウレリーの部落を中心として1，000メートル近くをひたすら階段道路が続くのである。ようやく急坂の彼方に渓谷の流れが見えてきた。ブルンディ・コーラの支流である。小休止したときの吹き上げる風が涼しかった。

11時30分ティルケドンガで昼食、着いた時の気温34度、先着のキッチンボーイが配ってくれたレモンティが乾いた喉にしみこんでいった。

12時30分出発、ブルンディ・コーラにかかる吊橋を渡りしばらくは川沿いを歩いた。ビレタンテイの部落を通り過ぎ、15時50分に標高1，000メートルのナヤプールにようやく着くことができた。これで徒歩区間が終わって最後のテント泊まりとなった。まずは完登を祝って乾杯、仕事の終わったポーター３名が帰っていった。ご苦労様でした。16時頃激しい雷雨があった。これで連続四日間の雷雨である。

18時夕食、完登を祝ってコックがこの山の中で、しかも限られた道具でありながら、大きなケーキを作ってくれた。感謝、感謝である。

20時、シェルパ、キッチンスタッフを労う意味を込めて、隊員が持ち寄った下着、ラジオ、水筒、煙草、お菓子などの品物を景品に椅子取りゲームに興じた。チャン、ロキシーといった地酒を飲み、唄、踊りに夜の更けるのを忘れて時を過ごした。

ヒマラヤの蛍が、闇に光っていた。今日も隊員に下痢症状が幾分見えたが、隊長以下全員元気である。

（朝食メニュー）　パン（ママレード、ジャム、蜂蜜添え）　お粥　目玉焼き　日本の梅干し　日本

の海苔佃煮　日本の漬物
（昼食メニュー）　うどん　チャパティ（ママレード、ジャム、蜂蜜添え）　マュシュルーム　野菜サラダ　蜜柑
（夕食メニュー）　スープ　春まき　鶏のももから揚げ　野菜炒め御飯

5月4日（土）　08：45　ナヤプール発　徒歩　専用バス
10：55　ポカラ着
15：20　ポカラ空港発　ロイヤル・ネパール航空RA-146便
16：00　カトマンズ空港着
16：30　シェルパホテル着　専用バス
シェルパホテル宿泊

（天候）晴　　（気温）06：00～20℃　　12：00～34℃　　18：00～32℃

朝、ヒマラヤの冷気はさわやかである。テント場のすぐ横の山道を、早朝薄暗いうちから、ロバの隊列が山を登っていった。今日はカトマンズに帰る日であり、時間的にも余裕があったので、吊橋を渡ってナヤプールの村を見学して見た.

6時30分起床、8時朝食、8時45分出発、テント場より急坂を登り専用バスの待っている道路まで登るが陽射しが暑くなってきた。9時10分バスで出発、山で行動をともにしたシェルパ、キッチンスタッフとともに曲がりくねった山道を下った。途中、ノーダラ村で、マチャプチャレの雄大な姿が望まれた。気温30度。

10時50分ポカラ着、昼食までの間、ペワ・タルでボートに乗り湖に出たが、ここから綺麗に見える筈のアンナプルナの山々は雲に遮られて、わずかしか見ることができないのが残念であった。

12時、この日のポカラは36度の暑さになっていた。シェルパ、キッチンスタッフが作ってくれた最後の昼食を、ヒマラヤンジャニーの裏庭でとり、いよいよシェルパ達と別れる時が来た。サーダーが隊員一人一人に白い絹布を肩にかけてくれた。これでヒマラヤの山の生活が終わったことを強く感じた。シェルパ達との名残が惜しまれた。

15時20分ポカラ空港発、16時カトマンズ空港着、久し振りのカトマンズは気温34度であった。専用バスで16時30分シェルパホテル着。この日の夕食は、「ガレカバブー」のインド料理でトレッキングの無事終了を祝って乾杯をした。

この日も、隊員に下痢症状が幾分見えたが、隊長以下全員元気である。

（朝食メニュー）　パン（ママレード、ジャム、蜂蜜添え）　お粥　野菜サラダ　日本の梅干し　日本の海苔佃煮　日本の漬物
（昼食メニュー）　ネパールノラーメン　チャーハン　野菜サラダ　フルーツ

5月5日（日）　10：20　シェルパホテル発　専用バス
14：45　トリブヴァン国際空港発　タイ国際航空TG-312便
16：50　バンコック国際空港着
23：15　バンコック国際空港発　タイ国際航空TG-642便
（今野隊員・大場隊員）ソル・ツインタワーホテル宿泊

（天候）晴　　（気温）06：00～20℃　　12：00～30℃　　18：00～27℃

上空は晴れてはいたが、ヒマラヤの山々は最後まで姿を見せてはくれなかった。ネパールに別れを告げて、暑さにムッとするバンコック空港に着いた。夕食は久し振りの日本料理でしばらくのくつろぎの時間を過ごした。エヤーポートホテルの「瑞穂」の料理は寿司に天麩羅という日本料理の定番であった。

この日、航空券の都合で今野隊員と大場隊員は、バンコックに一泊することになった。

5月6日（月）　07：30　成田国際空港着
07：30　成田国際空港発　チャーターバス
14：30　山形駅前着
（今野隊員・大場隊員）

10：45　バンコック国際空港発　タイ国際航空TG-673便
19：00　成田国際空港着

暑さになれた隊員には、山形は寒かった。無事12日間のヒマラヤトレックを終わり、各自、思い出を胸に家路を急いだ。

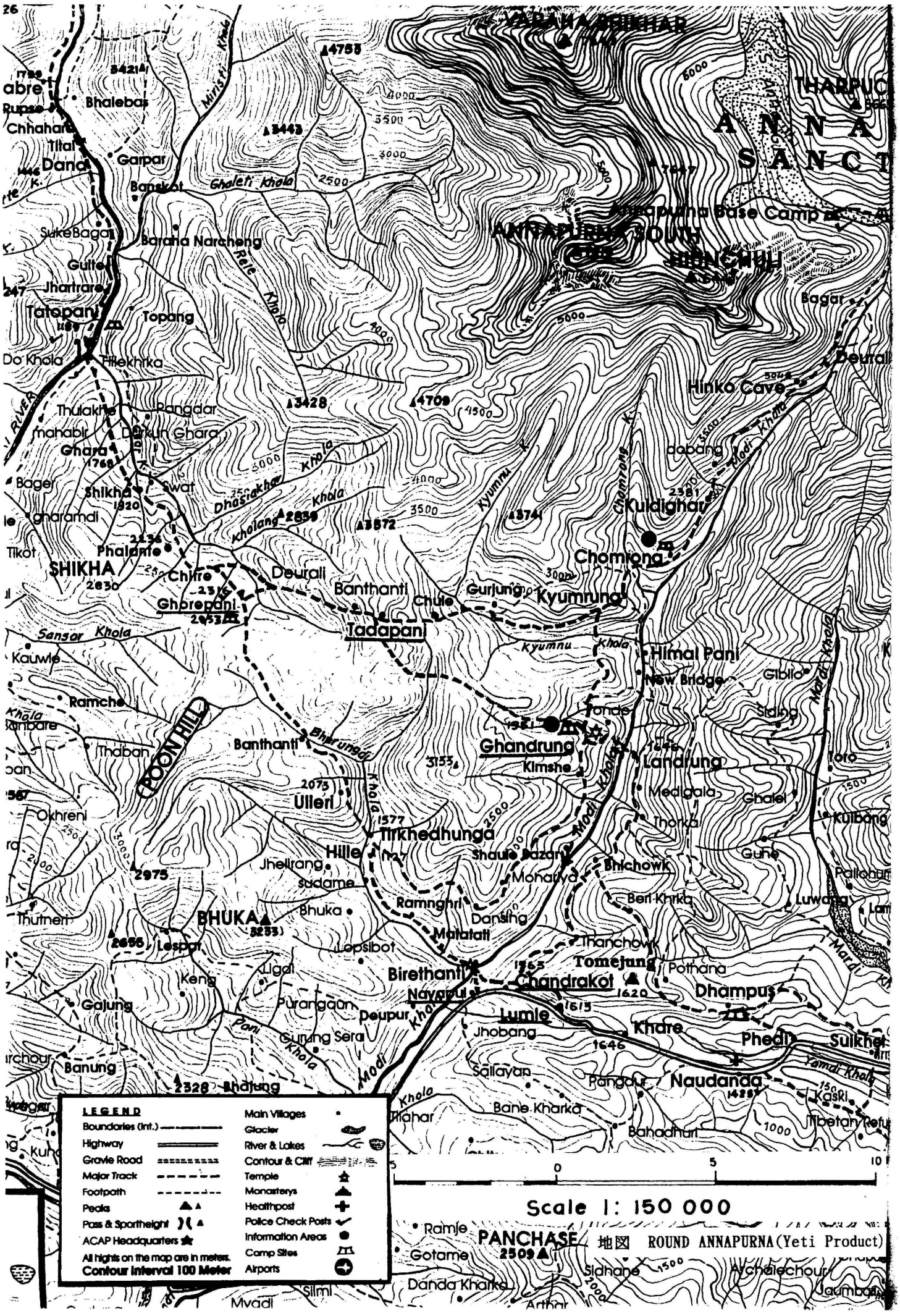
支部会員の皆様、ツァーリーダーの東さん、シェルパを始め現地スタッフ方々のご支援により、12日間のヒマラヤアンナプルナ・ダウラギリパノラマトレックを終わり全員無事に帰って参りましたことをご報告いたします。

ご協力有り難うございました。

このトレッキングで我々を支援していただいた現地スタッフの方々は次のとおりです。お礼を申し上げます。

サーダー　アンカミ
シェルパ　ナムカ、カルマ、ハクパ、ミンマ、アンカミ、ミマ、
コック　チュワンドルジェ
キッチン　ツレ・ライ、ダンバード、マイラ、プレンバードル、リンジン、ダワ、ジョスビル、
ポーター　16名/1日～13名/1日

▲　我々の行動を支えてくれた現地スタッフの皆さん



地図 ROUND ANNAPURNA(Yeti Product)

もう一つの記録

記録係　渡辺　誠
（協力　斉藤哲郎）

4月25日
隊員全員そろって夜半に貸し切りバスで成田空港に向け出発する。

4月26日
タイ国際空港に到着する。空港にはガイドが出迎えており、バスでバンコック市内のホテル（SOL TWIN TOWER HOTEL）にチェックイン、夕食のため市内のタイ料理店にバスで行ったが市内の交通渋滞には閉口した。

4月27日
約3時間のフライトで、トリブヴァン国際空港に到着する。バスでカトマンズ市内のホテル（SHERPA HOTEL)へ、部屋に荷物を置き、ヒマラヤン・ジャアニーのラメッシュ氏の案内で市内観光を行う（ラメッシュ氏は日本語が堪能であった）
市内の西方約2kmのスワヤンブナートへ、丘の頂上に白いストゥーパが建っていて、タルチョーがはためいている。（別名モンキーテンプル）頂上からカトマンズ市内が一望できた。また旧王宮やクマリの館を見学する。市内各所に聖地・寺院が多く点在しており、人々の信仰は高く、この信仰心がネパール文化を支えているのかも知れない。

4月28日
カトマンズからポカラに向かう国内航空機が3日ほど前に着陸時に事故を起こし、航空機の遣り繰りのため、15時発（予定では10時40分発）になったため、午前中は市内観光を行う。バグマティ川に面したヒンズー教の聖地パシュパティナート（パシュパティとはシバァ神のこと）へ、橋のたもとには10数個の火葬台が並び、幾つかの台からはチロチロと赤い炎が燃え上がり異臭があたりに漂っている。火葬が終われば灰は川に流される。すぐそばの川の水で女性が沐浴をし髪を洗っている。（この川は下流でガンジス川と合流しているからガンジス川なのだ）

4月29日
今日から本格的にトレッキングの開始となる。小雨の中、モディ・コーラに沿いトラバース気味に山腹を巻き進みながら約400m高度を下げ吊橋を渡り、川沿いの道を進む、途中川沿いの樹冠の上にアンナプルナサウスが姿を見せる。その雄姿に感動する。

4月30日
ガンドルンには、学校や宿泊施設等も目につき相当大きい集落である。
山腹道から樹林帯の歩きとなる。あたりには概ね樹高15m、幹回り100cm～160cm程度のシャクナゲの原生林で所々に真っ赤な花を咲かせている。林内は湿気が多く樹木にラン類が着生しているのが見受けられた。今日も山蛭の犠牲者がでた。よく見ると山蛭が地面に沢山いるのが見える。
14時、タラパニのキャンプ地で、激しい雷雨。急激に気温が低下し、降雹あり。
今日、途中であったトレッカーの話では、「昨日、今日は、タラパニは雨降りで山を見られなかった」

とのこと、このまま雨が降り続くとヒマラヤの高峰を眺望することが出来なくなる。雨季が早めに始まったのか、昨日モディ・コーラ沿いからアンナプルナ・サウスを眺めたのが、最初で最後になるのか等々、心配したが16時には雨があがり周囲の高峰が雄姿を現わす。アンナプルナ・サウス、アンナプルナⅡ峰、マチャプチャレが雲海の上に聳え立つ。

5月1日
早朝、アンナプルナ・サウス、マチャプチャレが神々しく輝いている。
昼食後は、標高300m程度のなだらかな尾根道を約2時間歩く。周辺の山々がシャクナゲの原生林で赤やピンクの花が今を盛りと咲き誇っている。
14時20分、キャンプ地のゴラパニ（標高2900m）に到着す。晴れているが、花曇りの感じで視界がきかない。

5月2日
約1時間の歩きでプーン・ヒルの頂上へ、頂上からはアンナプルナ連峰とダウラギリⅠ峰が180 度広がり、素晴らしい展望である。山麓はなだらかであるが高度を増す程急峻になっている。氷河が影響しているのか。
8時、テントに戻り朝食、今日は一日休養日である。ゴラパニはジョムソン街道の要地であるため、荷物を積んだロバの隊商が行き交い賑やかである。昼前、キャンプ地の近くに小学校があったので見学する。生徒30人程度が3グループに分かれて英語の授業をしていた。学校ではネパール語と英語を教えているらしい。
日本では、国際化や多様化の進展に伴う教育の対応が叫ばれているようだが、まだ小学校では英語は教えていない。

5月3日
樹林の中をモディ・コーラ支流の沢沿いに高度差1800mの下りとなる。途中各国のトレッカーやロバの隊商と行き交う、ジョムソン街道であるため道はしっかりしているが、牛馬の糞がそこかしこに点在しており注意を要した。
今日でトレッキングは最後になるので、夕食後にシェルパ・キッチンボーイ・隊員合同のお別れパーティー、椅子取りゲームに興ずる。地酒のロキシーで乾杯、酔いとともにシェルパは踊りだし夜半まで交流が続いた。

5月4日
ポカラにつき昼食まで時間があったので、ペワ湖に行き湖上でボートを楽しむ。路上で蛇使いを見るキングコブラが蛇使いの笛にあわせて踊りだす。
シェルパとキッチンボーイに山旅のお礼を述べ、ロイヤル・ネパール航空機でカトマンズへ、宿舎のホテル（SHERPA HOTEL）に着くや7日振りに入浴し汗を流す。

5月5日
トリブヴァン国際空港でツァーリーダーの東氏と別れ、バンコックに着く、空港ビルの日本料理店で夕食をとる。

5月6日
成田空港から貸し切りバスで一路山形へ、

食糧の計画と反省

食糧係　會田茂雄

今回のトレッキングにあたり、梅津隊長から食料係を、田中、會田の２名が指名され考えたことは、日本で常日頃たべているもの、調味料を中心に計画しました。ただ、トレキッグ中の食事のメニューがわからなかったので、今回のツァーリーダー東さんの意見を聞きながらら計画しました。その中では、味噌、だしのもとを使用したことは隊員より好評を博しました。、

また、毎朝お粥がでることがわからず、もし事前に分かっておれば、もう少し工夫ができたものと思われ残念でした。お粥にはふりかけ、胡麻昆布、岩海苔等を使用しましたが、もう少し工夫できたと思われました。

漬物については、「おみ漬け」が発酵してしまい初日よりだめでしたが、「沢庵」、「晩菊」、「しなべキュウリ」は数量的に毎日たべることができました。梅干しは、一部が簡易な袋の為、破けてしまい、ナイロンの袋に纏めたため、キッチンの方には迷惑をかけましたが、色々な種類のものを持参したため、毎日違った味で好評のようでした。コーヒーは、現地の物より日本の方が美味しいというので、番茶とともに持参しました。

ミネラルウオーターは、各自に２ℓを打合会で渡しましたが、機内で破裂すると悪いと言うことで水筒にいれるにとどまりましたが、もっと持参すれば、食当たりのようなことがなかったのでのではないかと思われます。

お粥の缶詰もせっかく持参したので残さず全部使えばよかったと思われました。

最後に食料係２名でしたが、ほとんど田中様より買い付けして戴き申し訳ありませんでした。

会　計　報　告

会計担当　三浦繁司

収入の部

（単位：円）

項　目	金　額	説　明
参加費	602,940	¥46,380x13名
調査費	100,000	
御餞別	50,000	
合　計	752,940	

支出の部

（単位：円）

項　目	金　額	説　明
会議費	40,306	打合せ資料、その他
食糧費	160,506	ミネラル、お粥、漬物、Beer代
交通費	387,200	山形~成田バス代、高速料金、出国税
記録費	95,000	写真フイルム、ビデオテープ、報告書作成費
通信費	4,108	切手、ハガキ、国際電話
薬品代	10,030	
見学料	32,200	カトマンズ観光バス代
雑　費	20,567	送金手数料、シェルパ、ポーター謝礼
合　計	749,917	

収入合計　752,940－支出合計　749,917＝**差引残額　3,023円**

▶　現地スタッフとの交流パーティー

留守事務局より

菊 地 俊 彦

アンナプルナ・ダウラギリパノラマトレック留守事務局を預かり、無事を祈り、「知らせの無いのが良い知らせ」と自分に言い聞かせながらの２週間でした。毎日地図の上を赤線でトレースし、今日はここまで来た、明日は林道であそこを蛭にやられる隊員がでるかもしれない、飲み過ぎ、食べ過ぎは、下痢は大丈夫だろうか、天候はどうだろうかと、見えぬと判っていながらテレビの天気予報ではブラウン管左下を密かに見たり、キャンプサイトからの景観を想定したりしていました。

家族の方々も同様に案じておられたことでしょう。事務局を担当して家族の方々に「無事である」ことの連絡ができないことへの苛立ちと無力感もありました。

そんな中で５月４日シェルパホテルの三浦、長岡両隊員から元気な声の電話「全員無事予定を消化し、ホテルに到着した。天候にも恵まれ、楽しいトレッキングでした。」

早速、隊員のご家族の方々へ電話連絡。それぞれの受話器の声は心から安心した様子がひしひしと伝わってくるものでした。口には出さなくとも心配しておられたことが判るものでした。しかしながら東海林、菅原両隊員宅へは数回電話したのですが留守。金森本部長宅には４日から何回か電話を入れたのですが留守。後で判った事ですが誠に遺憾ながら、金森本部長宅の局番を間違えてプッシュしていたのでした。こんなミスも加え、それぞれ連絡できなかったのが残念なことでした。そんなことで金森本部長よりは無事に到着したかという問い合わせの電話を事務局に頂いてしまい恐縮してしまいました。

６日には梅津隊長より正式に無事山形到着の電話を頂き、また支部役員長岡、会田、三浦各隊員、それに仙台の長谷川隊員よりも連絡いただきました。

ヒマラヤ遭難が頻発する中、なによりも全員無事帰国できた事が心からの喜びです。先ずは梅津隊長を中心に、楽しく安全なトレックに配慮された隊員各位に敬意を表し、併せてアトラストレックの東氏と山形支部関係各位並びに遥かソウルから救急薬を送って下さった韓国山岳会員の張（チャン）氏にお礼を申し上げ、次回には「ヒマラヤから山形へ伝書鳩を飛ばす」ことを保留して、留守事務局担当者の報告とさせて頂きます。

（留守本部長）

平成８年５月22日

▲ サーダー　アンカミ
（彼の父は１９６□年ダウラギリに登頂した）

▲ コック長　チュワンドルジュ
（彼の料理は都会的なセンスがある）

隊員のトレッキング紀行

再びネパール王国へ

會田茂雄

神々が住むというヒマラヤの白い峰々を見るために参加した。

ポカラよりルムネまでバスにて移動、ここよりチャンドラコットまで徒歩で今日の宿泊地へ、すでにテントが張られ食事も整っており感激。

翌日、ガンドルンへの登山路のシャクナゲ林は、なんと樹高が10～20ｍもあるのにびっくり。その樹々にはフウランやその他の植物が寄生し、道には日本のカンボタンと同じような草花が咲き乱れ、畑にはジャガイモの花が咲き、トウモロコシの茎が15～20㎝位に伸びていた。モディ・コーラの吊り橋を渡り対岸へ足を踏み入れるとモモの木が実をつけていた。

キャンプ地でのキッチンボーイは、モーニングティを配り、一服後の我々の洗面器に、いっぱいの洗顔用お湯を注いで回る。そして、昼食は我々が朝食に使用した食器を洗い、次の昼食場所まで運び、ブルーシートを敷き、その上にテーブルクロスを広げ我々の到着を待つ、というように食事の準備が出来ており、まさに至れり尽くせり、このキッチンボーイの行動には感謝、感謝。

タラパニには洒落たホテルがあり、前回のシャンボジェのバッティとは全然違っていた。到着のお茶を貰った後、雨そして雷雨、それが過ぎ去ると雲の中よりアンナプルナサウス、マチャプチャレが雲の切れ間から望まれたが全容は見ることが出来なかった。

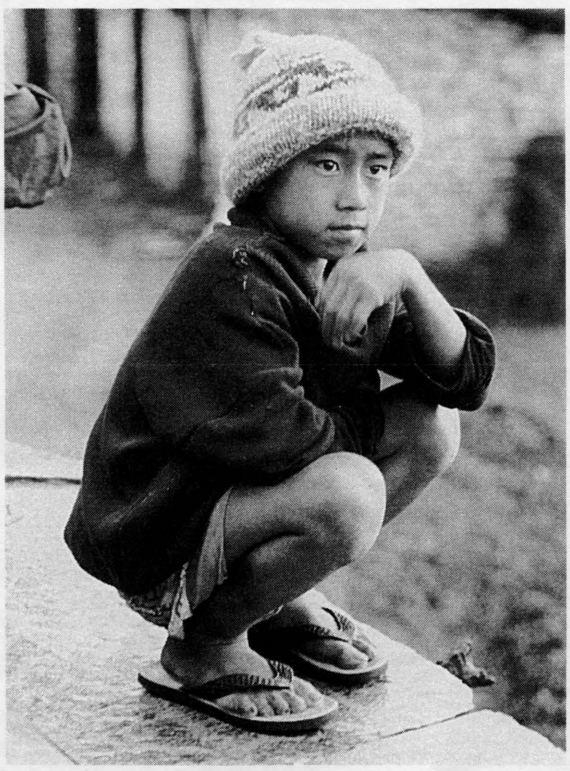
ゴラパニへは山を越え谷を渡り、昨日は見られなかったシャクナゲが今を盛りに咲き誇る。樹々の下の道には花弁が無造作に散りばめられ、山一帯が紅葉に染まっているようだった。

早朝太陽をむかえにプーンヒルの丘へ、入口ゲートにはＯＰＥＮ、ＳＵＭＭＥＲ 4:00 ＡＭ，ＷＩＮＴＥＲ 5:00 ＡＭと入門制限があり神々しい所と感じた。山頂よりダウラギリ、アンナプルナⅠ峰、アンナプルナサウス、マチャプチャレが見えるはずだが、丘に着く頃は雲の中。

この日は一日休養日なので、小学校があると聞いて学校へ、屋外教室で一人の先生が７～10名の子供と勉強中。若い女性先生にポートレートＯＫときくとＯＫの返事、数枚の写真を撮り先生へサンキュウとお礼を言ったら「有難う」の返事が返ってきてびっくり。

ビレタンティへ下る日に山々の全容が姿を表す朝の光を浴びたダウラギリが刻々と紅く雪の衣をキラキラと光らせている。ヒウンチュリ、アンナプルナⅠ峰、アンナプルナサウスは南面のため逆光となって、陽の光が光束となり雲の中で帯になっている何とも言えない光景。それにしても毎夜の景観は昼には見えなかったヒマラヤの白い峰々が月の光と星の輝きで、これぞ神々が住む山々と言うことを感じながら対面出来たことは幸運であった。

最後に支部の企画により、このトレッキングに参加出来、多くのＪＡＣ山形支部会員と、ご一緒出来たことにを感謝申し上げる。



▲　ネパールの子供

隊員のトレッキング紀行

下痢と女と犬と処女峰アンナプルナ

梅津　博

山では、寒さと腹こわしが怖い。幸い今回は、寒いどころか暑くて仕様がないくらいだったのはいいが、腹下しには悩まされた。ゴラパニの手前あたりが一番つらかった。汗が、急激な寒さのため冷えたのかもしれない。

それにもう一つ女性の強さには負けた。パーティーの女性２人の達者なこと、女をいたわるなどという言葉はもう私の辞書から消してしまった。女性といえば、今回のルートで、出会ったネパールの山の民、特に女性の笑顔は忘れられない。それと子供達の不思議な位大きく透きとおった目も忘れられない。女性も子供も、大らかにゆったりと、大きな自然の中に身を置いているという感じが何とも羨しかった。

村の中をおそらくは、日がな一日、うろついているであろう犬でさえ、心なしかおっとりとしているようにみえた。ツァーリーダーは、あれでも○○○○という種類の犬で、飼い主には従順だが、獰猛な性格の犬だと教えてくれた。種類の名前はすぐ忘れたが、犬のおっとりとした顔だけは未だに忘れない。その時、同行の一人が、あれは鎖に繋がれていないから、ストレスがないのだと知ったような顔でいったが、或いはそれが本当なのかもしれない。

ところで、やまは、要所要所でチャンと見えてくれたから、パノラマトレッキングの目的は果たしたと思うが、あの山のあの峰の頂きに一度でいいから立って見たいと思う夢だけは残った。モーリス・エルゾーグの「処女峰アンナプルナ」を夢中で読んでいた遠い青春時代をチョッピリ思い出した。何十年も前の話である。人類最初の経験といわれた8,000メートルをしのぐアンナプルナが登られたのが、1,950年だったと思う。アンナプルナの山名さえ不確かなあの時代の、先人たちの山登りと生き方を思って、ひととき私の脳裏に昔日の世界がよみがえってきた。本でしかお目にかかれなかったヒマラヤの山をようやくこの年になってから間近に見るだけでも幸せなのかもしれないと思ったりもした。

ゴラパニの最後の真夜中、テントの正面に、月明りに照されて、銀色に輝くアンナプルナ山群の稜線が、金色の光を放っていて私を呆然とさせた。青黒い空には、大きな星が悠久の光をまばたかせ、山群左のニルギリがカリガンダキに山脚を落とし、そこから西にダウラギリ山群が、深く濃い藍色に立ちはだかる姿があった。同じテントのパートナーがシュラフにもぐりながら、「興奮して眠れそうにもない」とつぶやいていた。

▲　ポカラ空港で

隊員のトレッキング紀行

ヒマラヤを歩きながら

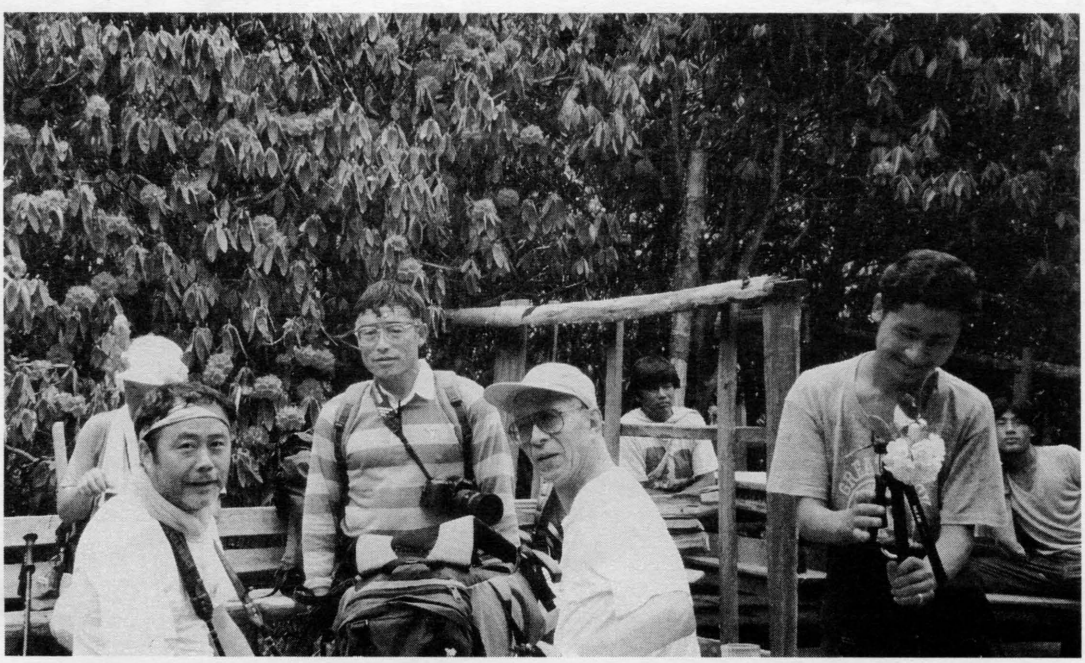
大 場 貞 吉

私の願いは、いつまでも青い地球であってほしいと言うことである。今や殖え過ぎてしまった人類は、生物の生命維持装置に多大なる悪影響を与え続けている。しかもそれに対しさも正当な理由ずけをする。

今回ヒマラヤ山行に参加さしてもらい長年の夢であった高き山々を仰ぎ見ることができた。一個人としては大変有難いことだと思っている。しかし、手ばなしで喜ぶ訳にはいかない。

いま、日本人はアジア各国に対し大きな影響をＧｏｏｄ　ａｎｄ　ｅｖｉｌ両面にわたり与えている。そのことを理解しながら喜びたいと思う。かつてアメリカインディアンは、アステカ、アンデス文明は、自分の国をなくし殺され、強いものが残った。そんなことがあって良いのか？．いや良い訳はない。いや良いも悪いもない。生物の世界は強いものが残る。ただそれだけだと思う。しかし微妙なバランスの素に生物の世界は成り立っている。人間は万物の霊長であるという自覚を持ち全般に渡り管理する義務があるのではないかなどと考える。そしてまず自分を管理すべきだと思う。貨幣が作り上げた損得の世界、利便快楽のみを追及する人類ヒマラヤを歩きながら、ヒマラヤは何もしないでそっとしてほしいと言っているようだ。などとハチャメチャなことを思いながら歩いてしまった。

最後に、東さんを始め日本山岳会山形支部の方々にお礼を申し上げたい。



▲　石楠花の林の前で一休み　この写真がカラーでないのが残念！

隊員のトレッキング紀行

ヒマラヤを旅して

今　野　秀　穂

昭和３８年だったろうか、ナイロンザイル切断という社会的事件を背景に、山を舞台とした井上靖の小説「氷壁」が発行され、それが登山ブームのきっかけをつくったことがあった。

私は、その頃高校を卒業後、社会人の山岳会に入り夢中で山を歩いていた時であり「氷壁」に少なからず影響を受けたことは確かである。そしてこと更、山行に拍車がかかり、果てはいつかヒマラヤの山を登ることを夢みて、穂高では落ち、冬の岩手県境では雪庇もろ共吹雪の谷底に転落。晩秋の鳥海では豪雨に見舞われ凍死寸前という幾度かのアクシデントの遭遇にも奇跡的に生命を拾い、青春を山に燃焼させていたが、年を加えるにしたがって、ヒマラヤの山の登りたいという夢は、いつしか、見果てぬ夢となりそれがヒマラヤの山を見たいという気持に変化してそれさえ仕事の関係上、休暇さえとれず、今まで実現することはできなかったが、この度、自由業となってその念願がかなえられることになった。

念願のヒマラヤを歩き、身近かに天を抜いて屹立、氷雪の白い神々の座を見たときは、想像していたもの以上のものを感じ、自分が再び人間に生まれかわってきた時は、必ず、登ってみたいという気持の湧いてくるのを禁じえなかった。

今回のヒマラヤ行は、その土地で真剣に生きている人々の生活も含めて全てに心に迫るものがあって本当によかったと感謝している。

終わりに、ツアーリーダーの東さん、シェルパ、キッチン、ポーターの皆さんに厚くお礼申し上げます。

俳　句

ヒマラヤを行く　（１０句）

西瓜食う　モデイ・コーラの　波荒し

ポーターの　少年の瞳に　白き峰

ヒマラヤの　闇の深さを　蛍とぶ

（仏　塔）　（石楠花）
チョルテンの　供花に真紅の　ラリーグラス

石だたみ　縫って登行の　登山隊

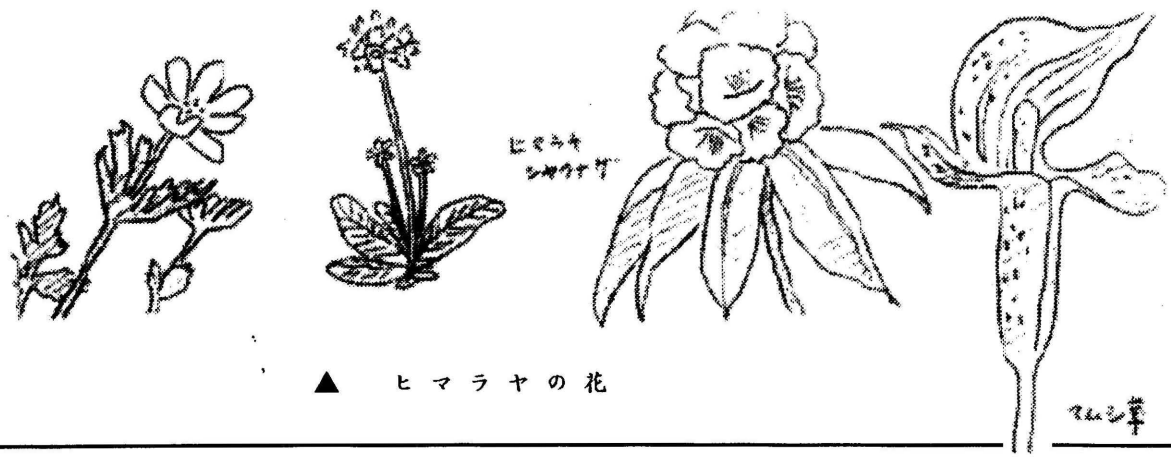
流星一閃　暗夜に高き　白き峰

雪煙を上げ　朝焼けの　白き峰

隊列を整え　ロバの　炎暑行く

急登の　背に真紅の　ラリーグラス

ナマスティ　裸ん坊は　炎天下



▲　ヒマラヤの花

隊員のトレッキング紀行

民族との出会い

菅 原 富 喜

私が中国奥地の黄土高原、シルクロードを訪れたのは昨年７月のことである。そのとき砂漠のはるか彼方に、世界の屋根白銀のヒマラヤの峰々が雲の上に見られた。思い返すとそのときがヒマラヤへの旅の衝動にかられた初めであった。

チャンスは以外と早くやって来た。12月ＪＡＣ山形支部の晩餐会の席上支部役員会から海外トレッキングの件が提案された。その提案は私にとってはまさに渡りに舟のチャンスの到来でもあった。

年が明けると私は３ケ月間心身の準備を怠らなかった。旅行は現地への往復の移動の若干の変更を除けばすべて予定どおり決行された。なんといってもこのヒマラヤトレッキングは大旅行である。

私はこの大旅行にあたって次の四っのことに最大の期待と興味を抱いたのであった。

一つは、　ネパールは世界に誇る山岳観光の国である山岳景観を自分の目で確かめたい。

二つには、ネパールは多民族国家でもある。異民族との出合いと異文化に興味と関心を持って接したい。

三つには、ヒマラヤ山群の植物の植生の観察を心掛けたい。

四つには、メンバーの役割・記録写真の担当を支障なく全うしたい。

以下は旅行後のそれらの感想である。

① さすが観光立国。高所民族の村、千枚田、シャクナゲ絢爛等景観絶景であった。プーンヒルにてダウラギリ・アンナプルナを展望、天候が今いち残念であった。だがゴラパニ出発の朝の展望～絶景。絶句・・・・。

② トレッキング中同行のシェルパ、ポーターとの交流－良かったですね。

【高所民族の生活】　現代の日本とあまりにも異なり、シャッターを押すことに暫く戸惑いを感じた。

③ シャクナゲの大木、山ヒルの出現に仰天する数名が生き血を吸われた。

【トレッキング中よく見かけた花】　スミレ、リンドウ、エビネ、フウロ、サクラソウ、ユキワリソウ、ただし、いずれも日本には見られない変種（原種）のようである。

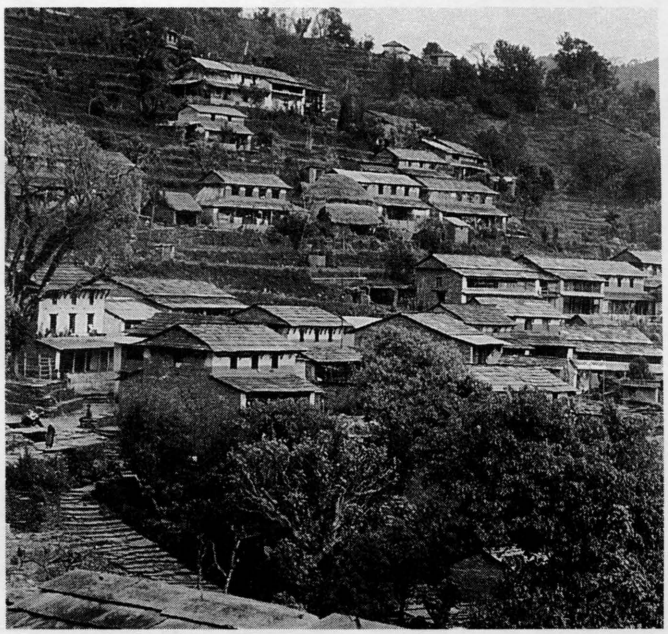
山菜類では、コゴミ、ワラビ、ミズ、フキ、マムシグサ等。いずれも日本と違う種。なお、木についても日本と似た木はあるが全く同じ木は見うけられないようである。

④ 写真［使用カメラ］ニコンFM2T（スライド）ニコンF70（カラー）オリンパス120（カラー）

［写真集の内容］　計約５０枚
全員共通写真　　約３０枚
（独断と偏見で選考）
オリジナル写真　約１８枚
パノラマ写真　　２枚

スライド写真　１００枚
反省会のおりに上映を予定しております。

皆さんたいへんお世話になりました。



▲ トレッキングルート沿いの集落風景

隊員のトレッキング紀行

少し前の日本を思い起こさせる国
－ネパール－に旅して

高橋　治

私のような者でも登山の回数を重ね年数を経ると‘高いところに’‘難しい山に’‘外国の山に’憧憬をもつ。そして‘高いところ’‘難しい山’は無理ならせめてそれらの山の近くまで、そんな山々を自分の目で眺められるところまでは行ってみたいとも思っていた。その思いが実現したのである。参加者１３名（内女性１名）というのは企画した人たちを驚かせたのではないだろうか。

私にとってネパールは２度目の海外旅行であった。この旅行に期待するところは多くあった。ネパール国はその期待に応えてくれた。だが事前学習の不足は否めなかった。反省点である。

９日間に亙るトレッキング中われわれを世話してくれた、シェルパの人たちもキッチンスタッフの人たちも純朴な人たちそのものであった。着いた先々の村の人たちや子供たちもまた同様であった。言葉が通じないというハンディ、不自由さは確かにあったけれど、彼らとの意志の疎通はブロークンイングリッシュでその何分の一かはできたのである。

家の前の日陰で髪を梳あう母娘、機を織る婦人軒先の小屋でのんびりと草を食む牛、上へ上へと積み重なるような棚田。牛に犂を引かせる農夫。川べりで戯れる子供たちの歓声。学校のグランドは狭くてもそこで飛び回っているのは元気なネパールの子供たちだ。それは私の記憶にもある少し前の日本でもあった。

ある日の夕刻に降り始めた雨は、次第にその降り様を強め雷鳴も轟かせ稲妻も走るようになった強い雨は一時霰となってわれわれのテントを叩いた。微睡みから覚めたら辺りは静まり返っていた。テントを出た。厚い雨雲は吹き払われて満天に星が煌めいていた。そして眼前にはアンナプルナサウスの全容があった。その姿を今目にしているのは私だけだ　息を呑むような感動を覚えた。

「オサム君来てよかっただろう。」の問いかけに「ウン・・・来てよかった。」と応えたのだった。

▲　石楠花の前で菅原隊員と記念撮影

隊員のトレッキング紀行

アンナプルナより愛をこめて

田 中 洋 子

初めてヒマラヤの山々を見た私は、その魅力にとりつかれてしまいました。そしていちばんに思ったことは、又行きたいという事です。ほとんどたいした知識もなく行ったので感動、おどろき、感激の連続でした。

異文化を目のあたりにして、そこに住む人達の純粋な瞳に胸が熱くなりました。そして又、子供達がすぐ集ってきて英語で話しかけるのには、びっくりしてしまいました。私は英会話など全然ダメですが、身ぶり手ぶりでジャンケンポンを教えて、あっちむいてホイして、すっかり仲よししました。子供達の顔を描いたり、ナヤプールで仲よしした子供の家まで遊びに行って、楽しいひと時でした。シェルパやポーターの若者達と唄ったり踊ったりしたのも、忘れられないことです。

テントや食事の世話をいたれり尽くせりでしてもらって、楽しくてもう元の生活には逆れない、と真剣に心の底から思いました。

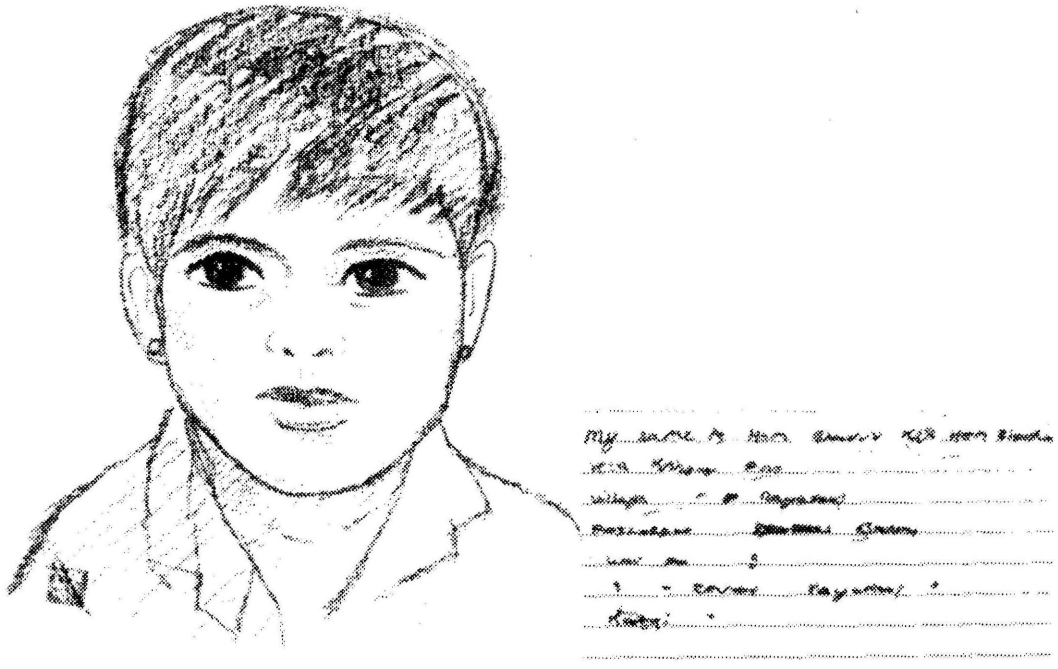
アトラストレックの東眞理子さんと出会ったのも私にとって、大きな収穫です。

東さんの人柄や人間性、豊かな感性には惚れ込んでしまいました。いろいろ夜遅くまでおしゃべりして、楽しくて寝るのがもったいないくらいでした。次回も東さんと行きたい。と思ったのは私ばかりではないようです。

キャンプ地では毎晩のように、すごい雨が降ってテント大丈夫かな、と心配な位でした。それでも翌朝は晴れるので、とてもラッキーでした。ゴラパニの朝はアンナプルナ、ダウラギリ、マチャプチャレｅｔｃすばらしいヒマラヤの山脈を見る事ができて、感動で胸がいっぱいでした。

楽しい山旅を無事すごすことができたのも、東さん、隊長、隊員の皆さん、そして私たちのお世話をして下さった大勢のスタッフの方々のお陰です。ほんとうにありがとうございます。

またお会いしましょう、あの山で。



▲ ナヤーブルで仲良しになった少年　英字は少年の書いた自分の名前と住所

隊員のトレッキング紀行

アンナプルナ・ダウラギリ パノラマトレクに参加して

東海林　敬

ネパール国ヒマラヤへのトレッキング、出発1996年4 月25日夜、ネパール国、入国4 月27日昼、今回でヒマラヤへのトレッキングは支部会員として２回目、（前回は1993年12月29日夕方ネパールへの入国。）のためか、それとも初夏の様な気温のためか、異国、それも世界の屋根のある国という感覚があまりなく、北緯２８度付近にある南国へ来た感覚でした。

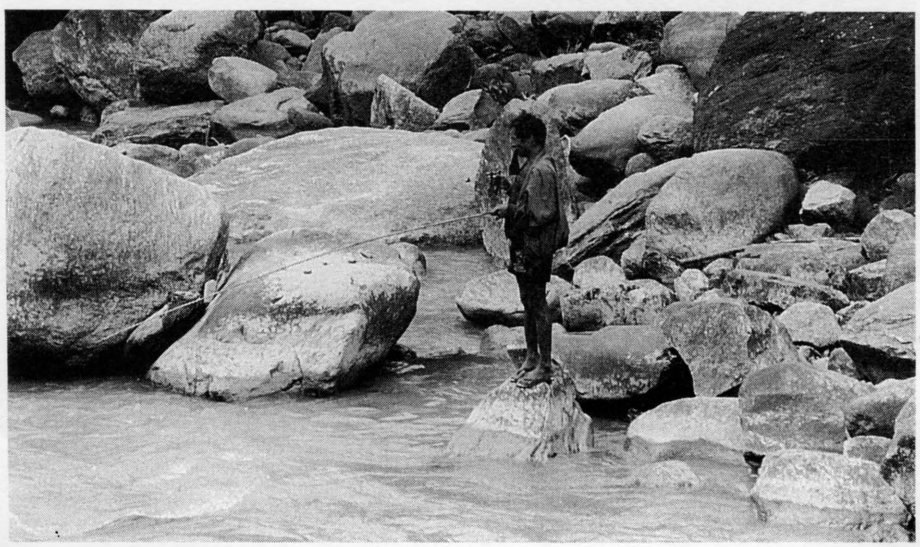
カトマンズ市内や市民は３年前と比べれば、なんと経済成長なのか先進国の影響なのか発展が著しく、活気に溢れて見えた。市内の建物、道路の周りの雑多な様子が一変している。観光立国のためか各観光地での物売りは、相変わらずだ。日本人のトレッカーはお金を沢山持って山に入ってくると言うよりも、トレッカーの目的が２つ、３つ、とあるように思われる。

山行は、人それぞれ、山によってもそれぞれ、時期によってもそれぞれ、ヒマラヤトレッキングのやり方もそれぞれで、今回のような（あえて名称を付ければ、）大名行列的トレッキングは、５０歳を越えた人間として、自分の体、特に膝関節が中古品となってしまった体としては、体調への注意のみで足りた、何故ならば、ツアーリーダー、隊長及び諸先輩方の隊員への心配りによって、山行は本当に楽しく、楽で、おもしろく、気分爽快で、雨が降ろうが、吸血ヒルが足元をはい上がろうが、世界の屋根が見えずとも、「ザ、ヒマラヤトレックヽヽヽヽヽ」。時間と金が許されるなら、今後もチャレンジしたい。

今後のトレッキングは、贅沢が許されるなら、もう少し標高の高い所で、気温の低い時期が希望です。もう一つ、トレッカーの目的が２つ、３つでなく１つでいきたい。本当に、本当に、贅沢な夢です、希望です

山は逃げないが、人間（自分）の体力と、若さ（気持ち）は逃げていく。

１９９６年５月３１日



▲　ブルンディ・コーラの河原で、少年が魚釣りをしていた

隊員のトレッキング紀行

ヒ マ ラ ヤ 雑 感

長 岡 伸 恭

カトマンズは一昨年に続き二度目となる。前回は冬、今回は初夏との季節の違いはあれ、あの独特の車のクラクションの音が煩しいがやけに懐かしい。街は相変わらず騒々しい。色彩豊かな樹木の花が騒々しい街中にどうゆう訳だかうまく溶け込んでいるのは神々の座が後ろに控えているナチュラルの為だろう。

今回は、総勢１３名の隊員構成からなり、小生の役務はビデオ撮影。この大役の為、使い慣れた愛用の機種を、多少の不安もあったが軽量さと画質の劣化がないデジタルビデオにと換えての山行きなのだ。

購入後は試し撮りなしのぶっつけ本番。多少の不安どころか、不安だらけである。その不安に追い打ちを駆けるように、その大事なビデオカメラをカトマンズの路上で落とし壊してしまった瞬間、頭の中は真っ白。外枠が一部変形して、バッテリー内蔵の蓋が開き、バッテリーが飛び出している。内部のメカも故障が起きている可能性もあり、その状態が解らず、アクシデントに、これから始まる山行の事を考えるとつくづくスペアのビデオを持って来れば良かったと後悔するが後の祭り。外観は、メンバーの協力も得、応急処置を施し、後は成り行き任せと決め込んだが心中穏やかでなかった。

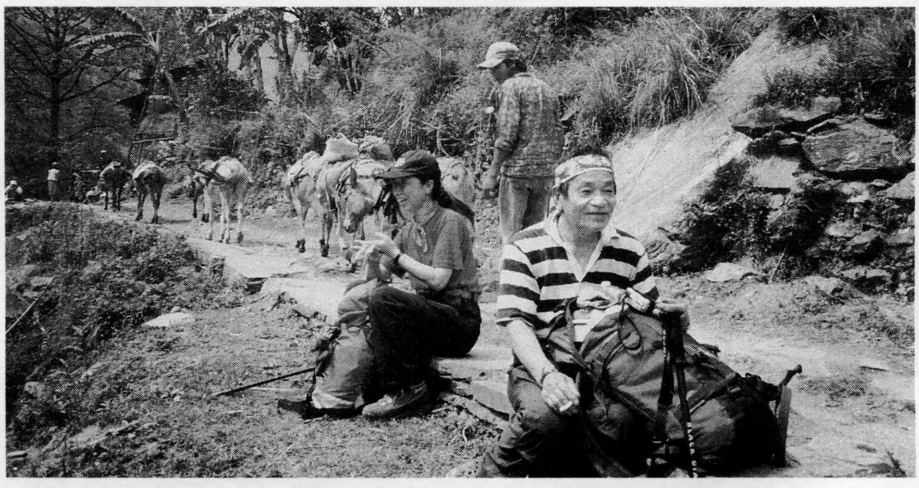
高度を増す毎に目を見張る山々や樹木の素晴らしさ、街道の集落の生活様式、そこで生活している人々と動物との係わりあい、澄んだ輝く瞳の子供や動物達等、現代の我々が忘れかけている大事な事を教えて貰った意義あるトレックであった。

それにしても、桃源郷を思わせるあのラリーグラスの花の園、夕日に雄々しく黄金色に染まるマチャプチャレの秀峰、朝日と共に輝き息ずくダウラギリ、ヒマラヤ山群、これぞまさしく“大自然”そのものだ

この様な素晴らしい機会を与えてくれた関係者各位に御礼を申し上げると共に、お金と体力が許す限り、機会があれば何度でもヒマラヤに行きたいと思う。

最後に、気になるのはビデオ。不出来の折りは私の不注意と腕の悪さの為で、ビデオのせいではありませんので、その件はご理解下されば幸です。

それにしても、ビデオがどんな具合に写っているかが楽しみだナァー。



▲ ロバの隊商が行き交う街道でいつぶく　臭いも行き交う

アンナプルナ・ダウラギリ　トレックでの雑感

長谷川　利　貞

※　カトマンズで見た［生と死］の光景

聖なる川ガンジス川の上流にあたるバグマティ川畔にあるヒンドウ教の聖地で、シバ神に奉納されたといわれる寺院、パシュパティナートを訪れた。線香の煙のゆらめく中、巡礼者の列は続いていた。人々は持ってきた花々をリンガ（ご神体）に捧げ、米やヤク、水牛の脂や乳を捧げていた。ご神体が並ぶすぐ下流、ガートと呼ぶコンクリートの台状のもの（長さ４ｍ位，巾２ｍ位、高さ１ｍ位）が岸づたいに続いている。そこで焚火をしていた。よく見ると、死者を荼毘に付しているのだった。死者を葬る青白い煙が静かに流れて通り抜けていく、川の下流では川の中で体を清める人、長い黒髪を洗う老女、歯を磨き髭を剃る男、水遊びではしゃぐ子供等、生と死が混沌となっている世界だ。火に焼かれ棒でくだかれ、きれいに灰になった人間は聖なる川へ導かれ帰っていく、同時にその川は生きている人々にとって生活の源であり、新しい生命の誕生の時もまたこの川の水で産湯につかる。このような光景を眼にし、私はショックでしばらく口もきけなかった。

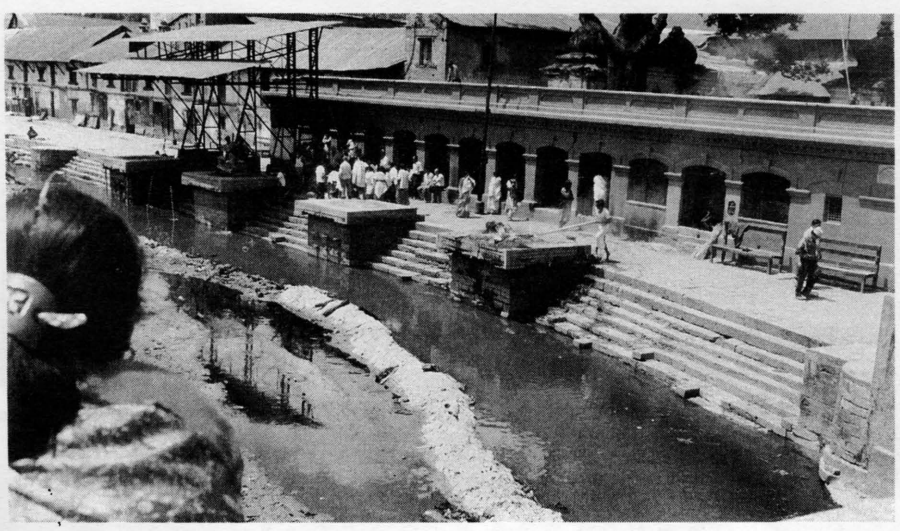
※ヒマラヤの山ヒル（ジュガ）について

ガンドルンの村からタラパニまでの樹林の中を歩いているとき、トイレのため草むらにはいると「ジュガ」と呼ぶ山蛭が10数匹飛びついてくる。

又木の枝葉からも降ってくる。道の上、我々の靴の上、ズボンの上に、、じつに細い撚糸のような小さな蛭が不気味に敏捷に蠢動している。

我々は靴の底で沢山潰したがそんなことではとても追い付かない。一方の靴のを掃いても執念深く他の脚に飛び移って来る。踏みつぶしても、ちぎっても死なずなかなかしぶとい。ただタバコの火をつけると丸まってポトリと落ちる。こんな具合だから皮膚は絶対に露出しておけない。人間の体温を感じて吸い付いてくるらしい。

私も左足をかまれたが、痛みも痒みもまったくない。吸いつかれると皮膚に穴があき血がなかなか止まらない。一番の特効薬は塩で、塩を振りかけるとナメクジのようにじゅるじゅると溶けてゆく。



▲　パシュパティナートに煙が流れていく

心の故郷ネパールより

三浦繁司

昨年より海外山行の話が有り、２回目のネパールと話が決まり、前回のトレッキングの素晴らしいエベレスト、目の前にそそり立つアマダブラムを思い出した。

今回のトレッキングはアンナプルナとダウラギリを見るという計画で、前回の様に高山病に悩まされる事はないようである。

飛行機を乗り継ぎカトマンズへ、空港の出口に立った時に何となく懐かしさが思い出された。車の屋根に荷物を積み込み、バスでは運転助手が誘導の為、車体後部を素手で叩く音が特に懐かしく思えた。

今回のトレッキングは自分の２本の足が頼りなので、運動不足の私には少々の心配があった。山行１日目は、夕方のポカラからチャンドラコットである。夕方だが日差しが強く、30℃以上あるようであった。

2,000m以上の山にも桃、桜（メクランゴ）リンゴが植えてあり、又、麦とトウモロコシ畑の脇を歩くと私の子供の頃の風景と何ら変わりなく、子供の頃に逆戻りした様な気分になった。又、荷物を入れるカゴを作る竹が竹林の様にならず、１ｍぐらいの広さで所々に見られた。

タラパニより石楠花の樹林帯であった。高さ10ｍ以上もあるような大木で、亜熱帯の為樹木にはコケが下がり、花も原色でとても美しいが、地面からは首を上げ立てひざで山ヒルが待っている。草むらの中に入って行くと山ヒルが登山靴についてきていた。足踏みをしながらの石楠花の鑑賞もまた、素晴らしいものであった。

ガンドルンとタラパニでは、夕方３時頃より雨になる。今年はどうも少々早く梅雨に入ったようである。タラパニでは、夕方の雨が上がり雲の切れ間よりアンナプルナサウス、マチャプチャレ、アンナプルナⅢが初めて顔を出して見せてくれた。

ゴラパニでは、春霞のようで、山ははっきりせず、夜中１時頃に腹の調子が悪く、起き外にでると、なんと、左にダウラギリ、前方にアンナプルナ、アンナプルナサウスが、冷えきった夜空に月明かりで光っている風景は大変感動する場面であった。

今回の山行にあたり隊長、我々の倍の現地スタッフ、東女史、サーダーと大変苦労が多かったと思われる。今後又計画があったらポカラで、ゆっくりと過ごしたいと思っている。

隊員の方々には大変お世話になりありがとうございましたと、御礼申し上げます。

▲　ゴラパニの学校で　若い女の先生と屈託のない子供たちと

隊員のトレッキング紀行

アンナプルナ・ダウラギリの眺望雑感

渡　辺　　誠

昔日、ヒマラヤ登山をした友人から、日本の山とヒマラヤの山では相違していると、聞いたことがあったが、実際に眺望してみて山や谷の形に違いがあるように思えた。北アルプス黒部峡の山腹（谷壁）斜面は下に向かうほど急になるが、ヒマラヤでは山麓は概ねなだらかな斜面であるが、上に向かうほど急になる凹形斜面の岩壁を、作っていた。ヒマラヤ山脈は、氷河が削った氷食谷であるためであろう。トレッキング中、ビレタンティの渓谷で、川の流れが白く濁っているグレーシャー・ミルクを見ることが出来たが、氷河を見ることが出来たらもっと楽しかったであろう。

ネパールヒマラヤの植物の垂直分布帯を図書等で調べてみると、ヒマラヤでは、概ね1,000mまでが熱帯・亜熱帯の雨林、1,000m～2,500mの間が常緑広葉樹林、2,500m～3,500mの間が針葉樹・広葉樹の混合林、3,500m～4,000mの間が針葉樹の純林4,000m付近で、森林限界、森林限界以上がシャクナゲ類、やなぎ類の低木帯を経て草木帯に移行するとあったが、タラパニからゴラパニへ向かう登山道の標高帯は、おおよそ2,700m～3,100m程度と思われたが全山一面にシャクナゲの中高木の純林であったのが意外な感じであった。

ネパールでは、全体として森林破戒が進み、原植生が僅かしかみられなくなった。たいがいが二次林であると聞いていたが頷ける感がした。ヒマラヤ山地は、アルプス・ヒマラヤ造林帯に位置し、プレートどうしが水平移動し、沈み込めずにぶつかり合う境界であるため、現在も押し合い続け、褶曲・隆起の造山活動が続いているらしいが、未来においてヒマラヤの高峰が、どこまで標高が高くなるだろうか等と思い巡らすと、楽しくなってしまう。

今回、ヒマラヤ・トレッキングに参加し、山麓や尾根を歩いて、自然に親しみ、現地人の親切さに触れ、またヒマラヤの高峰を間近に眺望し、その景観の美しさや険しさに感動することができたことに感謝しています。

▲　ゴラパニへの道はるか　山腹を行く

トレッキングをご一緒して

ツァーリーダー　東　眞理子

一日早くカトマンズに着いた私は、4月27日カトマンズのトリブバン国際空港で今か今かと、皆様のいらっしゃるのを待っていました。

「さあ、明日からのトレッキングが、無事で何事もなく、天気にも恵まれ、アンナプルナ連峰を始め、ダウラギリⅠ峰などが、きれいに見え楽しいトレッキングになるように。」と心の中で何度も祈りながら、再会を待っておりました。

梅津氏とは、電話等で、何回もお話をしたりしていたので、勝手に「親しみ」を持っていましたが、他のメンバーの方々とは、お付き合いも浅いので、少々、不安な気持ちもありました。ところが、トレッキングが始まると、一日一日と日がたつにつれ、毎日が、びっくりしたり、笑ったり、楽しかったりで、仕事でご一緒させていただいているのを忘れるぐらい、私も、仲間に（勝手に思っているのですが）いれていただいているような気持ちで楽しいトレッキングの仕事を、させていただきました。

ヒマラヤン・ジャニーズのスタッフ一同も多分、私と同じ気持ちであったと思います。

沢山のグループとご一緒している私ですが、お世辞ぬきに今回は『とても良いメンバー』でした。

スタッフたちにも、快く接して下さり、私の勝手に提案したゲームにも、ご協力いただき彼等もおおいに、楽しく仕事が、出来たものと思います。

私の第2の故郷のようなネパールで、短期間ですが、人と接し、生活、風景を見て、良い面、悪い面もごらんになった事と思います。小さな国なのに、世界第一位のエベレストをはじめ、沢山のヒマラヤがあり、沢山の民族が住み、いくつもの宗教をそれぞれが信じその中で生活している人々。

又、皆様と、ヒマラヤのふもとを、ご一緒にトレッキングが出来る機会が有れば……と思っております。

最後になりましたが、リーダーの梅津氏にはいろいろと、御めんどうをお掛け致し恐縮しております。又、皆様方にも、無事にトレッキングが、終了し、心より感謝致しております。

ダンネバード！

追記

トレッキング中、朝・夕においしい『ツケモノ』を沢山食べられて、とても、うれしかったです。

「山形のツケモノ」の大ファンになりました！

▲ツケモノ大好きのツァーリーダー東さん

あ と が き

アンナプルナ・ダウラギリ　パノラマトレックを終って

梅津　博

支部行事としては、近来にない長い期間の計画だったことから、参加者の便を考えて、ゴールデンウークをまるっきり使用しての計画となった。

はじめは、７～８人の参加者を予想して、トレッキングのエイジェントと話を進めていた。ところが、予想に反して、参加者が多くなり、一時、16人までの隊員構成になったときは、慌てたのが事実である。こんなことで、航空券の予約ができない隊員の分が出て、一部の隊員に迷惑をかけることになった。今後、このような計画をたてる場合の日程の組み方、隊員の確定時期など参考になることが多い。

そもそもこの計画は、年配者向きに計画されたのだが、隊の運行に、もう少し注意を払う必要があったと感じている。進行速度、休憩など基本的なことであるが、実際には、なかなか難しいことである。ただ幸いなことに、暑さを除けば、天候には、恵まれた方で、それにもまして、隊員の中に決定的な不調者がいなかったことなどから落ご者もなく、まとまった行動ができたことは、さすがベテラン揃いのパーティーであったと自賛してもいいと思う。

現地で用意してくれた装備・食料に不満はないが、日本から持って行った食料が、やはり一番口にあったのは当然である。日本食が献立に出てくるトレッキングがあってもいい気がする。

今後のヒマラヤトレッキングの計画を実施するにあたり、会の構成で重要な役割を占めている60代・70台の参加を真剣に考えて見る必要があるかもしれない。ただ、情報が簡単に手にはいり、旅行業者の敷いたレールに乗れば何処えでも行ける時代ではあるが、身体の調子次第ということばかりでいかないのが海外山行であると言える。参加する年配者会員の心構えと、山への準備も大切なのかもしれない。

このたびは、都会の喧騒や、勤めの慌ただしさと精神的ストレスにまみれた生活を離れ、高く白く聳える峰々に圧倒され、また、そこに生活する人々に触れ、驚きと感動に満ちた山行になったのではないかと思う。確かに、この山行で、ヒマラヤのファンになった隊員がたくさんおられる事と思う。このような山行ができたのも、一つには、ツァーリーダーの仕事を離れてまでの快い触れ合いがあったことと、それに現地スタッフの真摯な仕事ぶりにあったものと感謝をしたい。

最後にこのトレッキングが、支部行事として行われたことに意義があるので、これからの支部の行事に生かされ、うけ継がれていくものでなければならないものと思っている。これがこのトレッキングに参加したものの責務ではなかろうか。

（隊　長）

◀　ガンドルンへの登り

REPORT

支部事業報告

REPORT

平成７年度

平成７年度の事業概要

支部の総員は、64名である。この中には団体会員が一つある。昨年の支部入会会員は12名であり、物故会員は２名となっている。

支部会員63名（個人会員）について、平成８年４月１日現在の年齢別構成をみると、表１のようになっている。

表１　支部会員の年齢別構成　単位：人

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	計
計		1	8	22	23	7	1	1	63
0歳				3	2	4			ほかに団体会員1
1歳				1	4	1			
2歳			1	3	5				
3歳			2	3	3	1			
4歳				3	4		1		
5歳				3					
6歳		1	1	2	2	1		1	
7歳			1	1					
8歳			1	2	2				
9歳			2	1	1				

63名のうち、女性会員は、50代が４名、60代が１名、70代が１名の計６名で、年代は別としても淋しい限りである。63名のうち50代と60代で74.6パーセントをしめており、まさに熟年の集団といえる。今、会そのものが、若返りとか、若い者に期待する。といわれているが、まずは現状を踏まえた取り組みが大切だと思っている。

平成７年は、総会のほか登山を主とした集りとしては５月13日の「総会記念登山八森山」、６月18日の「蔵王山の清掃登山」、10月７日・８日の「鳥海山清吉新道散策」、10月29日の「女甑山登山」、平成８年に入って２月17日・18日の「蔵王山樹氷原を滑る会」、３月16日・17日の「鳥海山宮様コースを滑る」となっており、ほぼ２か月に１回の割りで実施されている。このうち秋の「鳥海山清吉新道散策」、冬の「蔵王山樹氷原を滑る会」は、恒例行事となっており、この時期に集るのが、支部会員の楽しみの一つともなっている。情報交換、親睦には欠かせない集りである。

もう一つの恒例行事となっているものに、「支部晩餐会」がある。12月の第３土曜日に１泊で行われるもので、山はご無沙汰しても、この日を待っている会員も多い。このほか、平成７年度の支部独自行事以外のものとしては、ＪＡＣ創立90周年の東北ブロック式典と記念登山「姫神山登山」の参加がある。

この年度は、総会を含め会員を対象とした集会・登山等は９回になる。63名の会員についてこれらに参加した人数をみると表２のようになっている。

表２　行事参加人数（対象行事：９回）単位：人

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	計
		1	8	22	23	7	1	1	63
参加人数			5	16	13	5			39
9回参加				1					1
8回参加									
7回参加					1	1			2
6回参加				1	3				4
5回参加				2	3				5
4回参加			1	1	1	1			4
3回参加			1	2	3	1			7
2回参加			2	2	1	1			6
1回参加			1	7	1	1			10

参加率からいえば50代と70代が注目される。50代は、72.7パーセント、70代は、71.4パーセントとなっている。70代の７名の方についていえることは、未だ現役で支部行事には積極的に参加され、山歩きもそれなりにこなしておられることには、敬意を表するほかない。

総員63名のうち、約62パーセントにあたる39名が、何らかの形に支部行事に参加されていることになる。９回全部に参加されてる方が１名いる。支部行事の推進役として貴重な存在であり尊敬に値する。一方39名が支部行事に参加しているとはいえ、そのうちの約四分の一にあたる10名が１回限りの参加である。こんなところにもこれからの問題があるのかもしれない。

新しい会員の増加には、常日頃から心を砕いていることの一つではある。支部行事に会員外からの参加も結構多く、その人たちがこれから会員として活躍してくれることを願っている。昨年の支部入会会員12名のうち40代が３名、50代が５名、（うち１名が女性）60代が３名である。

40代と30代の比較的若い年代９名のうち、三分の一にあたる３名がこの１年の増加であることは、幾分なりとも将来に希望を持たせるものとなった。

（日本山岳会年報『山岳』VOL91/1996掲載予定）

文責　（梅津　博）

支部記録から

（平成 7年 4月 1日～平成 8年 3月31日）

平成７年

4月 9日　**支部役員会**　　山形市「教育会館」
大橋、金森、梅津、加藤、阿部、佐藤（淳）
5月13日　**総会記念登山**　　八森山
大橋、折原、東海林、長岡、斎藤（哲）、水沢、金森、菅原　高橋、前盛夫妻　　11名
5月14日　**平成７年度支部総会**　最上町りんどう
梅津、大橋、折原、加藤、真田、田宮、東海林、長岡、三浦、斎藤、大沼、水沢、佐藤（節）、阿部、金森、後藤（彰）、小野、菅原、高橋、　19名
5月28日　**第一回役員会**　　山形コンベンション ビューロー
梅津、金森、会田、佐藤（淳）、今野、三浦、菅原、長岡、　以上８名　AM10.30~PM2.00
6月18日　**清水弥栄治追悼登山清掃登山**　蔵王山
金森、水沢、佐藤（節）、斎藤（哲）、梅津、今野、折原、長岡、東海林、田中、長岡（昭）長岡（五）、石山、鶴岡山岳会５名
9月 9～10日　**日本山岳会創立９０周年東北ブロック式典、記念登山**　盛岡市・姫神山
梅津、水沢、阿部、今野、折原、会田、斎藤、三浦、菅原、高橋、田中、前盛夫婦、東海林、長岡　15名
10月 5日　**事務局会議**　山形市東部公民館
梅津、菊池、三浦、田中、長岡
10月 7～ 8日　**清吉新道散策**　　鳥海山
梅津、畠中、阿部、佐藤（淳）、後藤、長岡、佐藤（藤）、林、佐藤（豊）、佐藤（達）ほか７名
10月14日　**日本山岳会創立９０周年記念式典・晩餐会**　新高輪プリンスホテル
梅津、村上、加藤、松田
10月14日　**支部長会議**　　新高輪プリンスホテル
梅津支部長
10月29日　**女甑山山行**　　最上町
菅原、水沢、佐藤（節）、佐藤（淳）、松田、田中、石山、後藤（彰）、斎藤（哲）、小野、長岡、梅本、秋野、ほか４名
12月 5日　**事務局会議**　　山形市東部公民館
梅津、菊地、三浦、田中、長岡
12月 9日　**支部会報『やま』№９発行**
12月 9日　**第２回役員会**　　最上町
梅津、金森、会田、三浦、今野、田中、菅原、後藤、佐藤（淳）阿部、長岡、
12月 9～10日　**支部晩餐会**　　最上町赤倉温泉
梅津、菅原、斎藤（幸）、斎藤（哲）、高橋、後藤（彰）、松田　佐藤（誠）、佐藤（淳）、佐藤（節）、金森、会田、折原、水沢、石山、林　阿部、田中、畠中、三浦、今野、梅本、秋野、加藤、藤、長岡、　以上２５名

平成８年

1月10日　**支部事務局会議**　　山形市「飯豊」
梅津、菊地、会田、三浦、田中、長岡
1月28日　**トレッキング参加希望者説明会**　山形市「教育会館」
アトラストレックより　東女史
会田、石山、梅津、加藤、菊地、今野、斎藤、高橋、田中、東海林、長岡、前盛、三浦、渡辺
2月13日　**事務局会議**　　山形市東部公民館
梅津、菊地、会田、田中、長岡
2月17～18日　**樹氷原を滑る会**　蔵王山形山岳会山小舎
会田、阿部、梅津、折原、加藤、金森、田中、東海林、長岡（昭）、長岡、松田、水沢、
日帰り　石山、三浦
2月24～25日　**支部事務局担当者会議**　東京グリーンホテル水道橋
三浦、長岡の２名出席
3月12日　**事務局会議**　　山形市東部公民館
梅津、菊地、会田、三浦、長岡、田中
3月16～17日　**鳥海山宮様コース**　　鳥海山荘
佐藤（淳）、後藤、梅津、梅本、長岡、渡辺、金森、田中、大橋、高橋（毅）、佐藤（藤）、佐藤（達）木村、林、　16日小松（久）
3月17日　**第３回役員会**　　鳥海山荘
梅津、金森、佐藤（淳）、後藤、田中、長岡、
3月24日　第２回海外トレック準備会　教育会館
会田、梅津、大場（貞）、菊地、今野、菅原、高橋、田中、三浦、長岡、長谷川、三浦、渡辺
以上13名

☆平成７年度新入会員　よろしくお願いします。

№12018 前　盛　智　恵
〒996　新庄市鳥越49-3　☎0233-22-7252
№12023 石　山　正　典
〒990-22 山形市下東山370-2　☎0236-86-5072
№12025 長　岡　昭　雄
〒990　山形市下条町1-5-12　☎0236-43-4570
Ｐ12026 長　岡　五百子
〒990　山形市下条町1-5-12　☎0236-43-4570
№12114 大　西　重　紀
〒999-85 飽海郡遊佐町吹浦字舘2　☎0234-77-3571
№12118 梅　本　幸　巳
〒997-11 鶴岡市大山2-19-19　☎0235-33-1214
№12119 佐　藤　俊　一
〒998　酒田市相生町1-5-25　☎0234-23-2166
№12124 志　田　郁　夫
〒998　酒田市千日町13-13　☎0234-33-6182
№12134 秋　野　芳　子
〒997　鶴岡市海老島町1-3　☎0235-24-3802
№12190 渡　辺　　誠
〒990　山形市あずま町3-14　☎0236-23-0958
№12266 長谷川　利　貞
〒982　仙台市太白区茂庭台2-1-32　☎022-229-6445

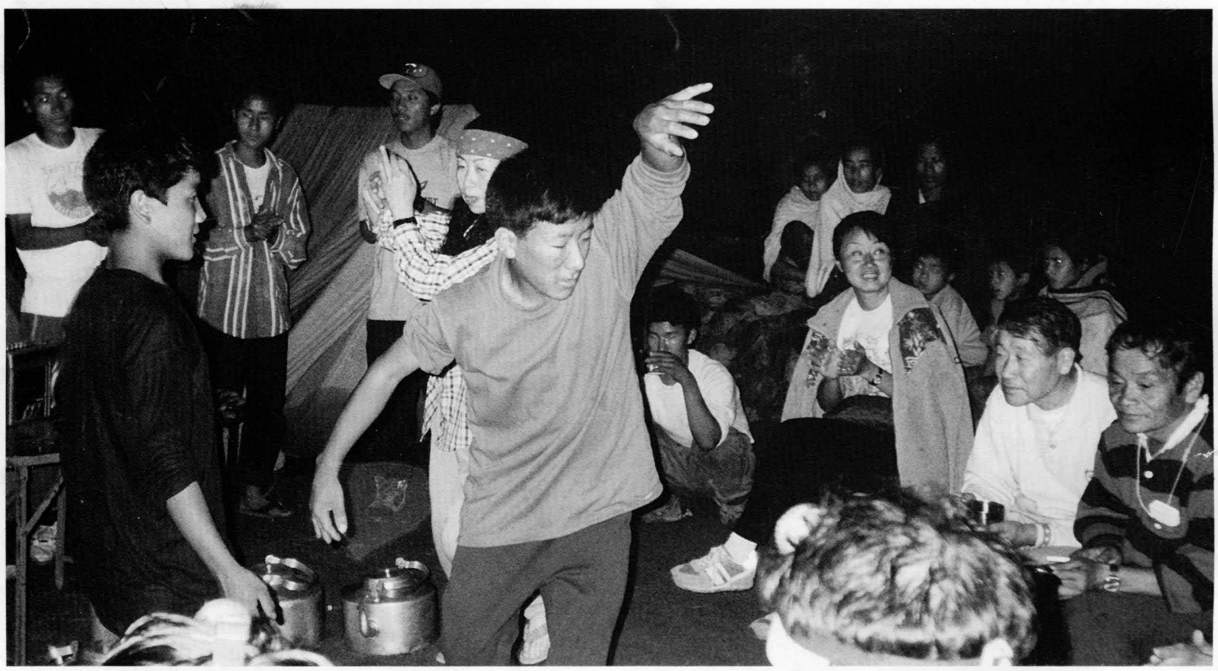
ご物故会員ご冥福をお祈り申し上げます。

№05841 高　橋　長　助　平成７年11月19日逝去
№12010 佐　藤　　力　平成７年11月20日逝去

▲　山一面の石楠花の群生

▲　石楠花の樹林帯を行く

▲　チャンドラコットのテント場



▲　交流会で踊るシェルパたち

◎編集後記◎　昨年度から計画を始めた、アンナプルナ・ダウラギリ　パノラマトレックも会員皆様のご協力により、無事終了しました。帰ってすぐ報告特集としての会報の編集にかかり、何とか、皆様の手元に届けることができました。参加された会員には、面倒をお掛けしたことをお詫びいたします。写真は、記録係の菅原隊員始め、隊員個人の写真を提供していただきました。感謝申し上げます。

★編集担当★　長岡伸恭・梅津博・菊地俊彦・會田茂雄・三浦繁司・田中洋子